

環境土木・建築学科

(1)卒業要件

授業科目分類	環境土木工学コース				建築学コース			
	必修	選必	選択	合計	必修	選必	選択	合計
工学部専門系科目	専門基礎科目							
	開講単位数	30	5	9.5	44.5	30	9.5	39.5
	取得要求単位数	30	6.5(1)		36.5	30	2	32
	専門科目							
	開講単位数	18		22	40	23	43.5	66.5
	卒業研究	5			5	5		5
	取得要求単位数	23		16.5	39.5	28	14	42
	関連専門科目							
	開講単位数			40	40		33.5	33.5
	取得要求単位数			6	6		8	8
小計								
開講単位数	48	5	71.5	124.5	53	86.5	139.5	
卒業研究	5			5	5		5	
取得要求単位数	53	29(1)		82	58	24	82	
履修方法	必修	48単位			必修	53単位		
	卒業研究	5単位			卒業研究	5単位		
	選必	} 29(1)単位以上 注1			選択	24単位以上		
	選択							
	合計	82単位以上			合計	82単位以上		
全学教育科目	全学基礎科目	16単位以上						
	基礎セミナー	2単位以上						
	言語文化	12単位以上						
	英語	6単位以上						
	その他外国語	6単位以上 注2						
	健康・スポーツ科学	2単位以上						
	文系基礎科目	4単位以上						
	文系教養科目	4単位以上						
理系基礎科目	19.5単位以上							
数学関係	微分積分学Ⅰ、Ⅱ，線形代数学Ⅰ、Ⅱ，複素関数論から計8単位以上							
物理学関係	力学Ⅰ、Ⅱ，電磁気学Ⅰ，物理学実験の計7.5単位は必修							
化学関係	化学基礎Ⅰ、Ⅱの計4単位は必修							
理系教養科目	4単位以上							
全学教養科目	2単位以上							
開放科目	2単位以上							
履修方法					合計	51単位以上		
卒業必要単位数	133単位以上				133単位以上			

(2)進級要件

判定年次	科目区分	最低必要科目数／単位数	条件等
1年終了時	理系基礎科目	5科目	理系基礎科目を5科目以上修得すること。
2年終了時	全学基礎科目	41単位	一 全学基礎科目 「言語文化」として英語6単位及び英語以外の外国語(ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語及び日本語(外国人留学生対象))のうちから1外国語4.5単位を含む10.5単位以上, 又は, 英語5単位及び英語以外の1外国語6単位を含む11単位以上を修得すること。 二 理系基礎科目は, 物理学実験1.5単位を含む17.5単位以上修得すること。
	文系基礎科目		
	文系教養科目		
	理系基礎科目		
	理系教養科目		
	全学教養科目		
開放科目			

注1: 選択必修科目(1単位以上)及び選択科目を合計して29単位以上修得すること。

注2: ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語, 朝鮮・韓国語のうち1外国語6単位。

ただし, 外国人留学生は日本語でもよい。

(2)授 業 科 目 一 覧

本一覧は変更となることもあるので、履修登録の際には注意すること。

専 門 基 礎 科 目

授 業 科 目 名	担 当 教 員			単 位 数	開講時期及び必修・選択の別			
					履 修 コ ー ス			
					環 境 土 木 工 学		建 築 学	
構造物と技術の発展	水谷 法美 教授	中村 光 教授	中野 正樹 教授	2	1 前	必修	1 前	必修
	福和 伸夫 教授	勅使川原 正臣 教授						
都市と文明の歴史	林 良嗣 教授	森川 高行 教授	恒川 和久 准教授	2	1 前	必修	1 前	必修
図学	西澤 泰彦 准教授			2	1 前	選択	1 前	必修
形と力	伊藤 義人 教授	護 雅史 准教授		2	1 後	必修	1 後	必修
人間活動と環境	辻本 哲郎 教授	久野 覚 教授	片山 新太 教授	2	1 後	必修	1 後	必修
確率と統計	森 保宏 教授			2	1 後	選択	1 後	選択
数学1及び演習	水谷 法美 教授	中村 友昭 准教授		3	1 後	必修	1 後	必修
情報処理序説	山本 俊行 教授			2	1 前	必修	1 前	必修
構造解析の基礎	館石 和雄 教授			2	2 前	必修		
土木の統計学	三輪 富生 准教授			2	2 前	必修		
土木の力学	戸田 祐嗣 准教授			2	3 前	必修		
環境土木工学実習	北根 安雄 准教授	中井 健太郎 准教授	中村 友昭 准教授	1	2 後	必修		
	加藤 博和 准教授	谷川 寛樹 教授						
構造力学	判治 剛 准教授			2	2 後	必修		
土質力学	野田 利弘 教授			2	2 前	必修		
流れの力学	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授		2	2 前	必修	2 前	選択
空間計画論	林 良嗣 教授	加藤 博和 准教授		2	2 後	必修	2 後	必修
空間設計工学及び演習第1	清水 裕之 教授	小松 尚 准教授	西澤 泰彦 准教授	2			2 前	必修
	脇坂 圭一 准教授							
建築構造力学及び演習	飛田 潤 教授			2.5			2 前	必修
数学2及び演習	武田 一哉 教授			3	2 後	選択	2 後	選択
コンクリート構造第1	山本 佳士 准教授			2	2 後	必修		
構造力学演習	判治 剛 准教授			1	2 後	選必		
土質力学演習	中井 健太郎 准教授	田代 むつみ 助教	野々山 栄人 助教	1	3 前	選必		
水理学演習	田代 喬 准教授	菊 雅美 助教		1	3 前	選必		
社会資本・空間計画学演習	森川 高行 教授	中村 英樹 教授	山本 俊行 教授	1	3 後	選必		
	加藤 博和 准教授	三輪 富生 准教授						
環境情報演習	谷川 寛樹 教授	奥岡 桂次郎 助教		1	3 後	選必		
空間設計論	小松 尚 准教授			2			2 前	必修
空間設計工学及び演習第2	恒川 和久 准教授	村山 顕人 准教授	太幡 英亮 助教	2			2 後	必修
	吉村 昭範 非常勤講師	松浦 健治郎 非常勤講師	堀田 典裕 助教					
応用構造力学及び演習	古川 忠稔 准教授			2.5			2 後	必修
鉄骨構造	尾崎 文宣 准教授			2			2 後	必修
解析力学及び演習	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授		2.5	2 前	選択	2 前	選択

専 門 科 目

授 業 科 目 名	担 当 教 員			単位数	開講時期及び必修・選択の別		
					履 修 コ ー ス		
					環境土木工学	建 築 学	
材料工学	中村 光 教授			2	2前	必修	
応用構造力学	北根 安雄 准教授			2	3前	必修	
土質・基礎工学	中野 正樹 教授			2	2後	必修	
開水路水理学	辻本 哲郎 教授	田代 喬 准教授		2	2後	必修	
社会資本計画学	森川 高行 教授	林 希一郎 教授		2	2前	必修	3前 選択
物理環境工学	久野 覚 教授	飯塚 悟 准教授		2			2後 必修
コンクリート工学	勅使川原 正臣 教授	丸山 一平 准教授		2			2後 必修
応用構造力学演習	北根 安雄 准教授			1	3前	選択	
コンクリート構造第2	山本 佳士 准教授			2	3前	選択	
地盤工学	山田 正太郎 准教授			2	3後	選択	
水文・河川工学	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授		2	3後	選択	
交通論	中村 英樹 教授	山本 俊行 教授		2	3前	選択	4前 選択
沿岸海象力学	中村 友昭 准教授			2	3前	必修	
水理学実験	中村 友昭 准教授	戸田 祐嗣 准教授	田代 喬 准教授	1	3前	必修	
	菊 雅美 助教						
地盤材料実験	中野 正樹 教授	野田 利弘 教授	山田 正太郎 准教授	1	3前	必修	
	中井 健太郎 准教授	田代 むつみ 助教	野々山 栄人 助教				
建築設計及び演習第1	片木 篤 教授	脇坂 圭一 准教授	恒川 和久 准教授	3			3前 必修
	堀田 典裕 助教	太幡 英亮 助教					
建築史第1	西澤 泰彦 准教授			2			3前 必修
建築計画第1	清水 裕之 教授			2			3前 必修
人間環境工学	久野 覚 教授			2			3前 必修
環境システム工学	奥宮 正哉 教授			2			3前 必修
耐震工学	福和 伸夫 教授			2			3前 選択
鉄筋コンクリート構造	勅使川原 正臣 教授			2			3前 必修
構造・材料実験法	丸山 一平 准教授	勅使川原 正臣 教授	古川 忠稔 准教授	2			3前 必修
	尾崎 文宣 准教授	中村 聡宏 助教	平井 敬 助教				
建築法規	廣井 悠 准教授	安田 直文 非常勤講師	山内 正照 非常勤講師	1			3前 必修
	二村 康成 非常勤講師						
防災安全	廣井 悠 准教授	護 雅史 准教授		1			3前 必修
極限強度学	伊藤 義人 教授			2	3後	選択	
鋼構造工学	舘石 和雄 教授			2	3後	選択	
都市環境システム工学	林 希一郎 教授	谷川 寛樹 教授		2	3前	選択	
海岸・海洋工学	水谷 法美 教授	永井 一浩 非常勤講師		2	3後	選択	
コンクリート構造演習	中村 光 教授	川除 達也 非常勤講師		1	3後	選択	
衛生工学	片山 新太 教授			2	3後	選択	
技術英語1	David Dykes 非常勤講師			1	3前	必修	
技術英語2	David Dykes 非常勤講師			1	3後	必修	
構造材料実験Ⅰ	伊藤 義人 教授	舘石 和雄 教授	中村 光 教授	1	2後	必修	
	北根 安雄 准教授	判治 剛 准教授	山本 佳士 准教授				
	廣畑 幹人 助教	三浦 泰人 助教					
構造材料実験Ⅱ	伊藤 義人 教授	舘石 和雄 教授	中村 光 教授	1	3後	必修	
	北根 安雄 准教授	判治 剛 准教授	山本 佳士 准教授				
	廣畑 幹人 助教	三浦 泰人 助教					
建築設計及び演習第2	清水 裕之 教授	小松 尚 准教授	長谷川 祥久 非常勤講師	3			3後 選択
	長谷川 寛 非常勤講師						
建築史第2	片木 篤 教授			2			3後 選択
建築計画第2	恒川 和久 准教授	脇坂 圭一 准教授	松岡 利昌 准教授	2			3後 選択
都市・国土計画	村山 颯人 准教授			2	3後	選択	3後 選択

専 門 科 目

授 業 科 目 名	担 当 教 員			単 位 数	開 講 時 期 及 び 必 修 ・ 選 択 の 別	
					履 修 コ ー ス	
					環 境 土 木 工 学	建 築 学
設備工学	奥宮 正哉 教授	齋藤 輝幸 准教授		2		3 後 選択
環境システム設計及び演習	奥宮 正哉 教授	齋藤 輝幸 准教授	飯塚 悟 准教授	2		3 後 選択
	吉田 友紀子 助教					
建築構造解析及び演習	尾崎 文宣 准教授	古川 忠稔 准教授		2.5		3 後 選択
構造設計工学	森 保宏 教授			2		3 後 選択
建築基礎構造	護 雅史 准教授			2		3 後 選択
建築材料工学	丸山 一平 准教授	横井 隆幸 非常勤講師		2		3 後 選択
建築生産システム	宇野 康則 非常勤講師			2		3 後 必修
総合設計及び演習第1 (構造)	古川 忠稔 准教授	田村 尚士 非常勤講師		3		4 前 選択
総合設計及び演習第1 (計画)	各教員			3		4 前 選択
総合設計及び演習第1 (環境設備)	各教員			3		4 前 選択
建築史第3	片木 篤 教授	西澤 泰彦 准教授		2		4 前 選択
社会環境保全学	谷川 寛樹 教授	森 保宏 教授	片山 新太 教授	2		4 前 選択
総合設計及び演習第2	各教員			3		4 後 選択
卒業研究A	各教員			2.5	4 前 必修	4 前 必修
卒業研究B	各教員			2.5	4 後 必修	4 後 必修

関連専門科目

授業科目名	担当教員			単位数	開講時期及び必修・選択の別		
					履修コース		
					環境土木工学	建築学	
情報処理演習	判治 剛 准教授			1	2前	選択	
数値解析学	山田 正太郎 准教授			2	2後	選択	
情報処理及び演習	恒川 和久 准教授 諸江 一紀 非常勤講師	太幡 英亮 助教	佐藤 隆久 非常勤講師	1.5			2後 選択
造形演習第1	水津 功 非常勤講師	神田 每実 非常勤講師		1			2前 選択
造形演習第2	諸江 一紀 非常勤講師			1			3前 選択
土質力学	野田 利弘 教授			2			3前 選択
計測技術及び実習	久野 覚 教授 齋藤 輝幸 准教授 奥岡 桂次郎 助教	山本 俊行 教授 飯塚 悟 准教授 平井 敬 助教	飛田 潤 教授 吉田 友紀子 助教 高橋 保博 非常勤講師	2.5	3前	選択	3前 選択
社会環境保全学	谷川 寛樹 教授	森 保宏 教授	片山 新太 教授	2	4前	選択	
学外実習	各教員			1	3前	選択	
衛生工学	片山 新太 教授			2			3後 選択
土木史	出村 嘉史 非常勤講師			2	3前	選択	4前 選択
空間設計論	小松 尚 准教授			2	4前	選択	
土木地質学	中野 正樹 教授	清水 公二 非常勤講師		2	4前	選択	
防災・減災技術	野田 利弘 教授			2	4前	選択	
水域環境学	水谷 法美 教授 戸田 祐嗣 准教授	辻本 哲郎 教授 中村 友昭 准教授	古川 恵太 非常勤講師	2	4前	選択	
社会基盤施設の設計と維持管理	中村 光 教授 酒向 秀次 非常勤講師	太田 睦男 非常勤講師 服部 邦男 非常勤講師		2	4前	選択	
国土のデザインとプロジェクト	非常勤講師			2	2前	選択	4前 選択
経営工学	非常勤講師			2	4後	選択	4後 選択
工学概論第1	非常勤講師			0.5	1前	選択	1前 選択
工学概論第2	非常勤講師			1	4前	選択	4前 選択
#工学概論第3	レイト エマニュエル 講師	曾 剛 講師	西山 聖久 講師	2	4後	選択	4後 選択
#工学概論第4	非常勤講師			3	1前	選択	1前 選択
工学倫理	非常勤講師			2	1前	選択	1前 選択
産業と経済	非常勤講師			2	4後	選択	4後 選択
特許及び知的財産	後藤 吉正 教授			1	4後	選択	4後 選択
建築学特別講義	非常勤講師			2			4後 選択
#社会環境工学概論	水谷 法美 教授 非常勤講師	清水 裕之 教授	飛田 潤 教授	2	後期	選択	後期 選択
職業指導	非常勤講師			2	4後	選択	4後 選択

注：#印の科目は、原則として短期留学生を対象とした科目である。

構造物と技術の発展 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年前期 1年前期
選択/必修	必修 必修
教員	水谷 法美 教授 中村 光 教授 中野 正樹 教授 福和 伸夫 教授 勅使川原正臣 教授

- 本講座の目的およびねらい
土木・建築構造の建設技術の歴史の変遷とその役割について、その基本となる土、鋼、コンクリートなどの材料特性、設計論・技術論的観点、水・エネルギー・交通など、都市のインフラである社会基盤整備の観点、さらに、各種の自然災害に対する防災論などの諸観点から概説し、代表的技術および構造物の歴史的發展を紹介する。そして、土木・建築の、過去から未来へとつながる技術の歴史的継承の様相とその意義について教授するとともに、土木・建築構造の技術課題を解決するための総合力・創造力を修得させる。
- 達成目標
代表的な土木・建築構造について、歴史的發展経緯、全体像を理解し、土、鋼、コンクリートなどの材料特性、設計論・技術論的観点、社会基盤整備の観点、防災論の観点から説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
構造工学、材料工学、水工学、地盤工学、地震工学に関わる講義すべて
- 授業内容
ガイダンス (中村)
技術者と倫理 (中村)
建設材料の発展と構造物 (中村)
インフラの維持管理技術 (中村)
海岸侵食と海岸保全技術 (水谷)
津波・高潮災害と沿岸防災 (水谷)
国土を支える技術としての地盤工学 (中野)
防災地盤工学と環境地盤工学 (中野)
鉄筋コンクリート構造の発展 中低層まで (勅使川原)
—コンクリートの始まりから鉄筋コンクリートの誕生まで—
鉄筋コンクリート構造の発展 超高層まで (勅使川原)
—中高層から超高層 R C を実現させた技術—
鉄筋コンクリート構造の発展 現状の技術 (勅使川原)
—より高性能な鉄筋コンクリート構造、ストック活用を目指す技術開発の現状—
東日本大震災に学ぶ防災対策 (福和)
阪神淡路大震災に学ぶ耐震対策 (福和)
南海トラフ巨大地震に備える (福和)
- 教科書
各教員より配布資料を配布する。
- 参考書
参考書は適宜紹介する。
- 評価方法及び基準
6教員が、個別にレポート課題を提出する。各教官がレポート内容を採点し、その合計点により総合評価する。合計点が60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優、90点以上を秀とする。なお、出席数が7割を満たさない者は欠席扱いとする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

構造物と技術の発展 (2.0単位)

講義中、及び講義終了時にコンタクトすることを基本とするが、他の時間については、電子メールを用いて対応する。

都市と文明の歴史 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年前期 1年前期
選択/必修	必修 必修
教員	林 良嗣 教授 森川 高行 教授 恒川 和久 准教授

- 本講座の目的およびねらい
古代から現代までの人類の都市文明の歴史を、自然条件や社会背景および技術発展やデザインの傾向と関連させつつ概説し、都市について考えるための基礎的知識の習得を図る。都市・建築にかかわる歴史的課題を、自然・モノ・人の視点を通して理解し、都市・建築設計する行為が社会や自然に及ぼす将来の影響を予測・評価し、その当否を判断する能力を養う。
- バックグラウンドとなる科目
なし
- 授業内容
1. 近代都市の発展サイクルとその背景にある途上国の基礎的課題を近代技術の歴史を通して認識する。 2. 都市計画史上の典型的な課題である交通技術の発展との関係を理解する。 3. 西洋及び日本の歴史的都市の形態およびその形態を成立させてきた要因を、その背景にある自然条件や社会的条件、歴史的人物の考え方などに着目して理解する。 1) 西洋都市史：古代ギリシア・ローマ、中世ヨーロッパ都市、ルネッサンス・バロック、近代都市論 2) 日本都市史：古代の都城、中世都市の形成、城下町、近代の都市計画、現代の都市空間
- 教科書
都市史図集編集委員会編『都市史図集』彰国社
講義概要および図版を掲載したプリントを配布する
- 参考書
図集日本都市史 図説都市の世界史 1～4
- 評価方法及び基準
・レポート及び学期末に行われる筆記試験の成績により評価を行う。
・試験問題は各担当教官が担当授業回数に比例した配点で作成され、評価はその合計点で行われる。60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義時間内に不明な点があれば随時質問を受け付ける。講義時間外での質問はメールまたは電話にて各教員に連絡を入れる。アポを取れば、来室も可能。

図学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年前期 1年前期
選択/必修	選択 必修
教員	西澤 泰彦 准教授

- 本講座の目的およびねらい
3次元空間にある図形(点、線、面および立体)を2次元の平面上に表現(作図)すること、逆に表現された図から3次元図形を計量的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより、空間的図形情報の把握・表現能力を養う。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
1. 正投影法 2. 多面体と断面 3. 曲線と曲面 4. 立体の相互関係 5. 透視図
- 教科書
小高司郎『現代図学』森北出版、ISBN978-4-627-08030-0
- 参考書
- 評価方法及び基準
2回実施する試験の点数の合計点によって成績判定する。60点以上を合格とする。両方の試験を欠席した場合の成績評価は「欠席」、片方の試験を欠席した場合は「F」とする。履修取り下げ届を提出した場合は「欠席」とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：西澤泰彦 (内線、3748, nisizawa@corot.nuac.nagoya-u.ac.jp)

形と力 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年後期 1年後期
選択/必修	必修 必修
教員	伊藤 義人 教授 護 雅史 准教授

●本講座の目的およびねらい
力や荷重、モーメントなどの基礎的概念を十分に理解した上で、建設系構造物を構成する各部分に発生する様々な部材力を構造形態に応じて導出するための基礎理論を学習し、これらを活用する手法を身につける。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容

1. 構造物の力学モデルの基本的な考え方を講義し、力、荷重、モーメント、自由体、断面力の概念を講義する。
2. 自由体の作り方、支点反力の求め方、断面力の種類と符号について講義する。
3. 軸力部材、はり、トラス、ラーメン、アーチ、ねじり部材の断面力を計算し、断面力図を描く手法を講義する。また、外力と断面力の関係の微分方程式を求めると。
4. 安定・不安定、静定・不静定の考え方を説明し、実際の構造物の不静定次数を計算できるようにする。
5. 実構造物の力と形の関係について、トラスを例にして講義する。

●教科書

構造・材料力学シリーズ2 構造力学1 レクチャーノート (一粒社)

●参考書

授業の最初にリストを提示する。

●評価方法と基準

中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、レポート (20%) の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

問題を自分でたくさん解くこと。

●質問への対応

来室やE-mailでの質問を歓迎する。TAへの質問も同様。

人間活動と環境 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年後期 1年後期
選択/必修	必修 必修
教員	辻本 哲郎 教授 久野 寛 教授 片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
人間の生活、生産、交通等の活動によりもたらされる環境負荷及び、それらの活動に必要な空間とインフラストラクチャーの質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容

1. 国土保全と持続性 (社会資本工学、環境学、応用生態工学の意義)
2. 河川・流域など国土の自然的なりたち
3. 環境影響評価とフォローアップの考え方と技術
4. 河川を例にした生態系の考え方
5. 流域の変遷
6. 自然再生事業・自然共生型流域圏・都市再生イニシアティブの考え方
7. 人体と光・日射、地球温暖化など (室内照明計算演習)
8. 人間の感覚・人体と音 (残響時間計算演習)
9. 人体と空気 (換気計算演習)
10. 熱と湿気 (内部結露の検討)
11. 専門を学び始めるための心得 (工学倫理・建築倫理)

●教科書

「環境工学教科書」環境工学教科書研究会、彰国社、2000

●参考書

「環境工学教科書」環境工学教科書研究会、彰国社、2000

●評価方法と基準

レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

確率と統計 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年後期 1年後期
選択/必修	選択 選択
教員	森 保宏 教授

●本講座の目的およびねらい
確率・統計論の基本的理論や一般的な確率分布/確率モデルの特徴、調査や実験・観測などから得られるデータから母集団の特徴を抽出する解析方法、さらに、種々の不確定要因を伴う土木・建築システムの設計・計画における意思決定への適用方法について講義する。

●達成目標

1. 確率・統計の基本定理を理解し、証明できる。
2. 一般的な確率分布関数のそれぞれの特徴を理解し、その統計量や確率分布関数を評価できる。
3. 調査・実験・観測データから母集団の統計量や確率分布を推定/検定する方法を理解し、計算/評価ができる。
4. 土木・建築分野における予測および意思決定のツールとしての確率・統計の位置付けを理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容

1. なぜ、確率・統計を学ぶのか、統計と倫理
2. 順列・組み合わせ
3. 確率の基本定理、条件付確率、ベイズの定理
4. 確率変数、確率分布、期待値、平均値、中央値、最頻値
5. 分散、標準偏差、モーメント母関数、確率変数の関数
6. ランダム事象の確率モデル：一様分布、ベルヌイ試行、二項分布、幾何分布
7. ランダム事象の確率モデル：ポアソン分布、指数分布、正規確率分布
8. ランダム事象の確率モデル：中心極限定理、対数正規確率分布
9. 中間試験
10. 中間試験解答の解説、データの整理、統計量
11. 相関係数と回帰分析、母集団と標本
12. 母集団の統計量の推定：点推定と区間推定
13. 統計的検定：平均値
14. 統計的検定：分散
15. 確率分布の推定、統計論的意図決定

●教科書

理工系の確率・統計入門：服部哲也 (学術図書出版)

●参考書

事例に学ぶ建築リスク入門：日本建築学会編 (技報堂)

●評価方法と基準

中間試験(25%)、期末試験(50%)、およびレポート(25%) で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

期末試験を欠席した場合は「欠席」とする。

●履修条件・注意事項

講義中に例題や演習問題を解いたり、小テストを行うので、電卓を必ず持参のこと

●質問への対応

確率と統計 (2.0単位)

講義中の質問を歓迎する。また、時間外では特に定まったオフィスアワーは設けませんが、電子メールでの質問を受け付けるほか、電子メール等でのアポイントメントにも適宜対応する。(内線：3769, Email: yasu@sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp)

数学1及び演習(3.0単位)	
科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年後期 1年後期
選択/必修	必修 必修
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 工学の専門科目の基礎力となる数学を理解させる。微分方程式及びベクトル解析の知識を系統的に示し、理論と応用との結びつきを習得させる。この授業を通して下記を達成する。1階微分方程式の初等解法を理解し、説明できる。2階線形微分方程式の解法を理解し、説明できる。連立微分方程式と高階線形微分方程式の関係と解法を理解し、説明できる。ベクトル演算と微分・積分を理解し、説明できる。ベクトルと空間図形との関係を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 微分積分学I, 微分積分学II, 線形代数学I, 線形代数学II</p> <p>●授業内容 常微分方程式 ・ 微分方程式の初等解法 ・ 定数係数, 変数係数の2階線形微分方程式 ・ 高階線形微分方程式 ベクトル解析 ・ ベクトルの基本的な性質, 微分 ・ 平面曲線, 空間曲線 ・ 曲面の表現, 距離・面積・法線 ・ ベクトルの場の積分定理</p> <p>●教科書 矢崎信男:常微分方程式, 理工系の数学入門コース-4, 岩波書店 戸田盛和:ベクトル解析, 理工系の数学入門コース-3, 岩波書店</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 期末試験の結果により総合判断し, 60点以上を合格。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 来室, メールによる質問で対応。連絡先:水谷(内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp)。</p>	

情報処理序説(2.0単位)	
科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	1年前期 1年前期
選択/必修	必修 必修
教員	山本 俊行 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 情報メディア教育センターのシステムを使って、ファイル操作、情報の検索・発信法、電子メールの利用法、およびプログラミングについて学ぶ。</p> <p>授業の目標は以下の通り。 1.計算機を使って文書の作成・整理が出来る。 2.電子メールが使える。 3.ウェブページの構造を理解し、簡単なウェブページが作成できる。 4.簡単なプログラムを作成し、計算を行うことが出来る。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 1. コンピュータ倫理 2. ファイル操作 3. 電子メールの利用 4. 電子化情報の検索 5. ウェブページの作成 6. プログラミング</p> <p>●教科書 ・原田賢一著「Fortran77プログラミング」(サイエンス社)</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 講義時間中に実際に作業を課すため授業参加を必須とする。課題レポートによって評価し、60%以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義中の質問を歓迎する。また、時間外では特に定まったオフィスアワーは設けなが、電子メールでの質問を受け付ける他、電子メール等でのコメントにも適宜対応する。(内線:4636, Email:yamamoto@civil.nagoya-u.ac.jp)</p>	

構造解析の基礎(2.0単位)	
科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	必修
教員	館石 和雄 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 力学において最も基礎的な物理量である応力、ひずみについて、その定義や、単純な力学系における導出法を学ぶ。また、テンソル解析の基礎と、応力、ひずみの主値、主軸の意味を理解する。続いて応力とひずみの関係則について学び、固体の弾性問題への適用について習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 形と力</p> <p>●授業内容 1. 応力 2. 主応力と主軸 3. 変形とひずみ 4. 構成則 5. 固体の弾性</p> <p>●教科書 適宜プリントを配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 中間試験(30%)、期末試験(70%)を基に、総合点60点以上を合格とし、100~90点をS、89~80点をA、79~70点をB、69~60点をCとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

土木の統計学(2.0単位)	
科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	必修
教員	三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい ある対象の特徴や性質を知ろうとすると、調査や実験によって観察する必要がある。しかし、観察には誤差が含まれるし、対象の全てを観察することは困難な場合が多く、このような情報から真の特徴を推測しなければならない。そのための方法論の基礎が統計学である。本講義では、環境土木分野での調査や実験を例示しつつ、統計学の意味と利用方法についての基礎知識を深め、応用できるようにする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 確率と統計</p> <p>●授業内容 1. ガイダンス、土木工学における実験データの統計的特徴 2. 統計分析の基礎(母集団と標本) 3. 統計分析の基礎1(母数の推定と差の検定) 4. 統計分析の基礎2(要因の効果の検定) 5. 分散分析 6. 実験計画法 7. 最小二乗法 8. 主成分分析 9. クラスタ分析 10. まとめ</p> <p>●教科書 資料を配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート課題と定期試験の成績から評価する。合計点が60点以上をC、70点以上をB、80点以上をA、90点以上をSとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

土木の力学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
 ・変形する物体の力学の基礎的内容を修得する。具体的には、運動や変形を数学的に記述する方法を学び、運動や変形と応力の関係を学ぶ。土木で扱う構造物、地盤、水といった物質が力学的にどのように記述されるかを理解する。・土木の力学に現れる支配方程式の性質を理解する。また、幾つかの基本的な問題に対して解を求め、方程式に内包される現象の特徴を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
 力学Ⅰ、力学Ⅱ

●授業内容
 土木の力学で扱う物体の特徴/ベクトル・テンソル解析の基礎/物体の変形や運動の数学的記述/応力の定義と応力テンソル/鋼・土・水の違い/土木で扱う物体の変形・運動を支配する方程式/微分方程式の種類と特徴/梁の振動・水の波/地盤の圧密・汚染物質の拡散/地下水の流れ・堰を越える流れ

●教科書
 必要に応じて教員より資料を配布する。

●参考書
 参考書は適宜紹介する。

●評価方法と基準
 試験により成績評価する。合計点が60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優、90点以上を秀とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

環境土木工学実習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	実習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	北根 安雄 准教授 田代 喬 准教授 中井 健太郎 准教授 加藤 博和 准教授 谷川 寛樹 教授

●本講座の目的およびねらい
 環境土木工学実習では、自由な発想のもと、環境土木工学に関連した課題の抽出と解決策を提案する。グループワークと自己学習による環境土木基礎知識やリーダーシップの素養の涵養を目的とする。学生が主体となって実施するが、問題の選定、解決策の検討、調査・計測は、各系の教員によるアドバイスを受けながら進める。講義を通して以下の能力を習得することを目標とする。

- ・自ら問題を発掘し、解決策を考究することができる能力。
- ・口頭および情報メディアを利用したわかりやすい説明ができる能力。
- ・周りの調和を図りながら自発的に行動することができる能力。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、構造物と技術の発展、人間活動と環境、国土のデザインとプロジェクト

●授業内容

以下のような流れのもと、学生が主体的となって、環境土木工学に関連した課題の抽出と解決策を提案する。

- ①環境土木工学に関連した問題抽出
- ②解決策の検討
- ③プレゼンテーション (取り組む問題と予想される解決方法について)
- ④問題解決のための調査設計
- ⑤調査・計測
- ⑥調査・計測とデータの取りまとめ
- ⑦プレゼンテーション

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

2回のプレゼンテーション、レポートの成績から総合的に評価する。総合点が60点以上の者を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義中の質問を歓迎する。来室およびE-mailでの質問も随時受け付ける。

構造力学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	判治 剛 准教授

●本講座の目的およびねらい
 構造物設計の基礎を理解するとともに、自重と作用する設計荷重によって部材内部に発生する応力と部材の変形を求め、およびエネルギー原理の基礎 (仕事、ひずみエネルギー、仮想仕事の原理) を習得することを目標とする。

1. 各種部材の変位で表されるつり合い微分方程式を理解し、誘導ができる。
2. 微分方程式を解く方法、変位適合条件、弾性荷重法などの方法を理解し、変位の計算ができる。
3. 部材の応力 (垂直応力とせん断応力) を理解し、計算ができる。
4. エネルギー保存則、仮想仕事の原理を理解し、それらの応用ができる。

●バックグラウンドとなる科目
 形と力、構造解析の基礎

●授業内容

1. 概論
2. 軸力部材のつり合いの微分方程式の誘導、変形と応力を求める方法および軸力部材の設計論
3. 曲げ部材 (はり) のつり合いの微分方程式の誘導、変形 (たわみ、たわみ角) を求める方法 (微分方程式を解くことによる解法、モールの定理など) と応力 (曲げ応力、せん断応力) の計算、軸力と曲げを受ける部材の応力および核の概念
4. ねじり部材のつり合いの微分方程式の誘導、変形と応力を求める方法
5. 重ね合わせの原理
6. エネルギー原理の基礎 (仕事、ひずみエネルギー、仮想仕事の原理)

●教科書

教科書：
 構造・材料力学シリーズ③「構造力学Ⅱ レクチャーノート」宇佐美勉・葛濱彬 共著 (一粒社)
 構造・材料力学シリーズ④「構造解析学 レクチャーノート」宇佐美勉・葛濱彬 共著 (一粒社)

●参考書

適時紹介する

●評価方法と基準

小テスト(10%)、中間試験(30%)、期末試験(60%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義資料や試験解答はウェブ上に公開します。
 特に定まったオフィスアワーは設けませんが、電子メール (hanji@civil.nagoya-u.ac.jp) での質問や随時来室 (9号館625室、内線4618) しての質問を歓迎します。

土質力学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	必修
教員	野田 利弘 教授

●本講座の目的およびねらい
 土粒子と水からなる飽和土の力学的性質を理解するために、二相系混合材料の捉え方を講述する。特に、土粒子が構成する土骨格の変形を伴わない間隙水の移動 (浸透) と、有効応力概念に基づく土骨格の変形を伴う間隙水の移動 (圧密理論) の違いを明確にしながら、土質力学の知識を養う。また、力学の基本的事項である、力のつり合いと、応力とひずみなどについても復習する。

●バックグラウンドとなる科目

力学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、微積分学Ⅱ

●授業内容

1. 土質力学の概要
2. 土とその構造
3. 土の締め固め
4. 透水 (連続式・ダルシー則)
5. 応力・間隙水圧・有効応力・透水力
6. 圧縮特性
7. 一次元圧密理論

●教科書

地盤力学 (土木・環境系コアテキストシリーズ)、コロナ社、中野正樹著
 プリント配布

●参考書

●評価方法と基準

レポート (20%)、中間試験 (30%)、期末試験 (50%) の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。なお無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

オフィスアワーは特に設けませんが、質問はE-mailで随時受け付ける。
 (内線: 3833, nodanagoya-u.jp)

流れの力学 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	必修
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流体の基本的性質を簡単に学んだあと、静止流体の力学を学習し、続いて様々な流れの概略を把握するための解析手法を学ぶ。エネルギー保存則、運動量保存則にもとづく巨視的な解析方法を身につけ、とくに管路流れを解析できるようにする。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
1. 流れの力学 水の性質 静止流体の力学 完全力学の基礎と相対静止 2. 基礎水理学 ベルヌーイの定理 エネルギー損失 運動量保存則 層流と乱流の概念 抵抗の概念
- 教科書
水理学1：植東一郎著（森北出版）
- 参考書
- 評価方法及び基準
筆記試験（2回実施、100%）
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

空間計画論 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	2年後期 2年後期
選択/必修	必修 必修
教員	林 良嗣 教授 加藤 博和 准教授

- 本講座の目的およびねらい
国土および都市の発展段階を意識した空間計画の理論について理解するとともに、欧米および日本における実際の空間計画制度について学習し、それらを相互比較することによって、21世紀の日本およびに求められる空間計画のあり方について探求する。
- バックグラウンドとなる科目
社会資本計画学、人間活動と環境
- 授業内容
1. 概説 2. 国・都市の成長・衰退・再生のメカニズムと空間計画 3. 各国の空間計画制度 4. 土地税制・土地情報・土地市場制度の国際比較 5. 発展途上国における空間計画制度の現状と課題 6. 少子高齢化・人口減少と空間計画との関係 7. 空間計画が環境問題に及ぼす影響 8. 日本における空間計画制度の全体構成とプロセス 9. 日本における都市計画の問題点と改進黨 10. 持続可能な都市経営のための空間計画 11. 国土・都市計画技術者に求められる倫理
- 教科書
特になし
- 参考書
林良嗣・土井健司・加藤博和編著：都市のクオリティ・ストック—土地利用・緑地・交通の統合戦略—、鹿島出版会、2009.9
- 評価方法及び基準
期末試験70点、レポート30点
- <平成23年度以降入学者>
100～90点：S、 89～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：F
- <平成22年度以前入学者>
100～80点：優、 79～70点：良、 69～60点：可、 59点以下：不可
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/space26.htm>

数学2及び演習 (3.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	2年後期 2年後期
選択/必修	選択 選択
教員	武田 一哉 教授

- 本講座の目的およびねらい
数学1及び演習に引き続き、環境土木工学を学ぶ基礎力を涵養するために、工学上重要な方法であるフーリエ解析、さらに工学によく現れる偏微分方程式について講義する。数学的思考方法及び具体的問題に現れる理論と応用との結びつきを重視する。ラプラス変換を用いた微分方程式の解法、各種時間関数のフーリエ変換法を学ぶことで、数量的スキルを身につける。偏微分方程式の解の形と、座標系の関係学ぶことで、論理的思考力を身につける。
- バックグラウンドとなる科目
数学基礎1, II, III, IV, V, 数学1及び演習
- 授業内容
1. 常微分方程式 2. 偏微分方程式 3. ラプラス変換 4. フーリエ変換
- 教科書
技術者のための高等数学3 フーリエ解析と偏微分方程式 E.クライツィグ著 培風館
- 参考書
技術者のための高等数学3 常微分方程式 E.クライツィグ著 培風館
- 評価方法及び基準
中間試験、定期試験の結果の平均が60%以上の得点であるものを合格とする。演習時間中に小テストを行い、これらの結果も加点的に評価に用いる。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義に関する連絡やハンドアウトの配布などは、nuct システム (<https://ct.nagoya-u.ac.jp/>) を通じて行いますので、定期的にアクセスしてください。

コンクリート構造第1 (2.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	山本佳士 准教授

- 本講座の目的およびねらい
コンクリート構造の基本的な力学性能である、曲げモーメントならびに軸力を受けるRCはり部材の終局に至る非線形過程の挙動ならびに、設計の基本となる曲げ応力度、曲げ耐力の算定方法について講義する。
- 1. 鉄筋コンクリート構造物の原理を理解し、説明できる。
- 2. ひび割れの発生と鉄筋の配置が理解できる。
- 3. 曲げ耐力が計算出来る。
- 4. 曲げ耐力が計算出来る。
- 5. 曲げ破壊モードの相違を理解し、説明が出来る。
- 6. 軸力を受ける場合の曲げ耐力・曲げ耐力が計算できる。
- バックグラウンドとなる科目
形と力、構造解析の基礎、材料工学、構造力学
- 授業内容
1. 技術者倫理、実際に建造されている各種コンクリート構造物の紹介
- 2. コンクリート構造物の成り立ち
- 3. 力学の基礎と鉄筋コンクリート構造物への適用
(力の釣合い条件、変形の適合条件、複合構造の曲げ応力度、換算断面)
- 4. RC部材の挙動 (荷重—変位関係、材料挙動と部材挙動)
- 5. RCはりの曲げ応力度の算定
(使用限界状態、中立軸、ひび割れ断面の曲げ応力度)
- 6. RCはりの終局強度と曲率
(終局限界状態、曲げ耐力、曲げ破壊モード、釣合い鉄筋比)
- 7. 曲げと軸力の相互作用
(終局限界状態、釣合い破壊)
- 教科書
コンクリートを学ぶ—構造編— (理工図書、梅原秀哲監修、中村光他著)
- 参考書
鉄筋コンクリート工学 (オーム社、町田篤彦他著)
コンクリート構造の基礎 (数理工学社、二羽淳一郎)
コンクリート構造 (朝倉書店、田辺忠顕他著)
- 評価方法及び基準
中間試験 (40%)、期末試験 (60%) の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。
- 100～90点：S、 89～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：F
- 履修条件・注意事項
実験中の私語は厳禁ですが、分からない場合は講義中でも質問を歓迎します。携帯電話を授業中に鳴らした場合は、その場で退室させ、不合格とします。
- 質問への対応
オフィスアワーは、木曜日10:30～12:00です。その他の時間でも随時来室しての質問を歓迎します。またe-mailでの質問も歓迎します。

構造力学演習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	選択必修
教員	判治 剛 准教授

●本講座の目的およびねらい
 構造物設計の基礎を理解するとともに、自重と作用する設計荷重によって部材内部に発生する応力と部材の変形を求める方法、およびエネルギー原理の基礎(仕事、ひずみエネルギー、仮想仕事の原理)を習得することを目標とする。
 1. 各種部材の変位で表されるつり合い微分方程式を理解し、誘導ができる。
 2. 微分方程式を解く方法、変位適合条件、弾性荷重法などの方法を理解し、変位の計算ができる。
 3. 部材の応力(垂直応力とせん断応力)を理解し、計算ができる。
 4. エネルギー保存則、仮想仕事の原理を理解し、それらの応用ができる。

●バックグラウンドとなる科目
 構造力学

●授業内容
 構造力学にて習った内容に対する演習を行う。

●教科書
 教科書：
 構造・材料力学シリーズ③「構造力学Ⅱ レクチャーノート」宇佐美勉・葛濱彬 共著(一粒社)
 構造・材料力学シリーズ④「構造解析学 レクチャーノート」宇佐美勉・葛濱彬 共著(一粒社)

●参考書
 適時紹介する。

●評価方法と基準
 小テストおよびレポートの評価により総合判断し、60%以上を合格とする。なお、小テストまたはレポートの提出回数が1/2以下の場合は、評価の対象としない。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 講義資料や演習解答例はウェブ上に公開します。
 特に定まったオフィスアワーは設けませんが、電子メール(hanji@civil.nagoya-u.ac.jp)での質問や随時来室(9号館625室、内線4618)しての質問を歓迎します。

土質力学演習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択必修
教員	中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい
 2年次に学習した「土質力学」「土質基礎工学」に関連する演習問題を解きながら、土質力学の基礎知識を一層深めると同時に応用力を養う。同時期に開講されている「地盤材料実験」とも関連性を保ちながら講義を進める。

●バックグラウンドとなる科目
 土質力学、土質・基礎工学

●授業内容
 1. 土の基本的性質
 2. 土の透水性
 3. 土の圧密
 4. 土のせん断

●教科書
 プリントを配布する。

●参考書
 中野正樹著、土木・環境系コアテキストシリーズ「地盤力学」、コロナ社

●評価方法と基準
 演習(20%)、中間試験(30%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 担当教員連絡先：内線5203 nakai@civil.nagoya-u.ac.jp

水理学演習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択必修
教員	田代 喬 准教授 川崎 浩司 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
 流れの力学で学習した水理学の基本事項に関する具体的な問題について演習をおこなう。・静水力学の原理を用いて、各種水圧やその合力・作用点を求める事ができる。・浮体の安定の可否を判定できる。・相対静止微分方程式から、任意の点の水圧が計算できる。・ベルヌイの定理(損失も含む)を用いて、管路での各種エネルギー線を描いたり、流量や任意の点での水圧を求めたりすることができる。・運動量保存式をたて、流管の境界に働く力を評価できる。

●バックグラウンドとなる科目
 流れの力学

●授業内容
 1. 静水力学(静水圧、圧力分布と浮力、合力と作用点) 2. 完全流体と相対静止 3. ベルヌイの定理(管路定常流・非損失系) 4. 非定常のベルヌイの定理(U字管振動) 5. 損失のあるベルヌイの定理(管路流の解法、損失係数、エネルギー線) 6. 運動量保存則

●教科書

●参考書
 水理学1：榎東一郎(森北出版)

●評価方法と基準
 レポート(40%)および筆記試験(2回、60%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 来室、メールによる質問で対応。
 連絡先：中村友昭(内線4632, tnakanura@nagoya-u.jp)、田代(内線4628, ttashiro@nagoya-u.jp)、菊(内線4634, kiku@nagoya-u.jp)

社会資本・空間計画学演習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択必修
教員	森川 篤行 教授 中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 加藤 博和 准教授 三輪 富生 准教授 柴原 尚希 助教

●本講座の目的およびねらい
 社会資本・空間計画において必要となる統計解析やそれを用いた現象分析の基礎を講義および演習によって実践的に理解する。さらに、分析した結果を英語でプレゼンテーション形式にて報告する。

●バックグラウンドとなる科目
 確率と統計、社会資本計画学、空間計画論、交通論、土木史、都市・国土計画

●授業内容
 1. オリエンテーション～基本統計量の概要及び演習
 2. 検定法に関する講義と演習
 3. 相関分析・回帰分析に関する講義と演習
 4. 需要関数に関する講義と演習
 5. 費用便益分析に関する講義と演習
 6. 自由課題に関するグループワーク(データ収集と分析、プレゼンテーション準備)
 7. 英語による報告会

●教科書
 講義ごとに資料を配布する。

●参考書
 講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
 演習レポート(50%)、平常点(10%)、研究計画書(10%)、最終発表(30%)
 100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F

●履修条件・注意事項
 これからの技術者は問題を解決するだけでなく、外部に対する説明責任を果たすことが強く求められている。国際的には英語での発表・議論が必須であり、この授業はそのような機会に役立つであろう。また、土木系全体にとって基礎的となる統計解析の基礎と実践、プレゼンテーション能力を身につけることができる。特に計画系研究室志望者にとっては必須の内容であるため履修すること。

●質問への対応
 オフィスアワーは設けませんが、電子メールでの質問を受け付けるほか、電子メール等でのアポイントメントにも適宜対応する。各授業の内容については各教員に問い合わせること。

環境情報演習 (1.0単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択必修
教員	谷川 寛樹 教授 奥岡 桂次郎 助教

●本講座の目的およびねらい

環境問題解決のための分析評価を行う情報処理の技法を表計算ソフトや地理情報システム(GIS)などを活用し、演習形式で習得する。本演習を通じて問題発見と構造化能力を涵養する。 達成目標 1. 環境資源の保全や活用を題材に問題の発見と構造化を行う。 2. 汚染物質や環境負荷を表計算ソフトや地理情報システムを用いて推計できる。 3. 環境改善の代替案評価といった問題解決のためのストーリーを通して、環境問題解決のシステムのアプローチに必要な情報処理能力を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

学術情報処理および演習、社会資本計画学、確率と統計、衛生工学、都市環境システム工学

●授業内容

第1週 インタロダクション(演習で何を学ぶか) 第2週 使用するアプリケーションの基本的操作1(表計算、GIS) 第3週 使用するアプリケーションの基本的操作2(表計算、GIS) 第4週 問題の発見1:都市活動や環境の状態を示す要素のデータ処理第5週 問題の発見2:要素間の関係を捉える相関分析の基礎第6週 問題の発見3:相関分析の応用第7週 問題の発見4:相関分析の応用第8週 物質フロー分析1:原単位法による都市活動や環境負荷の推計第9週 物質フロー分析2:原単位法による都市活動や環境負荷の推計第10週 物質フロー分析3:パラメータ変化に伴う物質フロー変化第11週 物質フロー分析4:パラメータ変化に伴う物質フロー変化第12週 人口動態による将来予測1 第13週 人口動態による将来予測2 第14週 人口動態による将来予測3 第15週 総括

●教科書

教員より資料を配布する。

●参考書

講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法及び基準

達成目標に対する評価の重みは同等で、小課題レポート40%、期末試験60%で評価する。総合的に100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。なお、出席数が7割を満たさない者は不合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

時間外の質問は、演習終了後、教室で受け付ける。それ以外の時間については事前に担当教員にメール・電話で時間を打ち合わせる。 谷川教授(内線3840, tanikawa@nagoya-u.jp)

解析力学及び演習 (2.5単位)

科目区分	専門基礎科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	2年前期 2年前期
選択/必修	選択 選択
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授

●本講座の目的およびねらい

(1年次までに学んだ)ニュートン力学を復習・意識しながら、仮想仕事の原理、より普遍的な力学原理であるラグランジュの運動方程式とハミルトンの原理等を学習することにより、解析力学による多様な運動の統一的解釈とより深い力学的考察ができる基礎力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

数学1及び演習、力学1・2、微分積分学1・2、線形代数学1・2

●授業内容

1. ニュートン力学の基礎的事項の復習 2. 仮想仕事の原理 3. ラグランジュの運動方程式 4. 微小振動問題・連成運動・基準振動 5. ハミルトンの原理、位相空間、正準変換

●教科書

河辺 哲次著:工学系のための解析力学(装華房)

●参考書

参考書:宮下精二 解析力学(装華房)、田村武 構造力学(朝倉書店)

●評価方法及び基準

レポート(20%)、初期・中間試験(30%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

オフィスアワーは特に設けませんが、質問は随時E-mailで受け付ける。(野田:内線3833, noda@nagoya-u.jp, 中井:内線5203, nakai@civil.nagoya-u.ac.jp)

材料工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	必修
教員	中村 光 教授

●本講座の目的およびねらい

コンクリート材料に主眼を置き、コンクリートの各種性質と構成材料(水、セメント、骨材など)との関係についての基礎を理解する。特に、コンクリート中の空隙組織と強度、変形との関係、空隙組織と時間依存性変形が生じる因果関係の理解を促す。また、ニューブリッジを活用し、尖構造物で起こっている諸問題についても考え、応用力や総合力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

構造物と技術の発展

●授業内容

1. 技術者倫理、材料工学講義の概説(土木構造物と材料)
2. ニューブリッジを用いたコンクリート構造物の維持管理概説
3. セメント、混和材(剤)
(製造、水和、硬化と生成物)
4. 鋼材の性質
5. 骨材の性質
6. フレッシュコンクリートの性質
(ワーカビリティ、材料の分離、配合設計)
7. 硬化したコンクリートの性質
(強度、微細構造)
8. コンクリート構造の劣化と耐久性
(アルカリ骨材反応、乾燥収縮、クリープ、塩害、中性化)

●教科書

コンクリートを学ぶ-施工編-(理工図書, 梅原秀哲監修)

●参考書

特になし

●評価方法及び基準

中間試験(50%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

<学部:平成23年度以降入学者>

100~90点:S, 89~80点:A, 79~70点:B, 69~60点:C, 59点以下:F

<学部:平成22年度以前入学者>

100~80点:優, 79~70点:良, 69~60点:可, 59点以下:不可

●履修条件・注意事項

●質問への対応

オフィスアワーは、金曜日10:30~12:00です。その他の時間でも随時来室しての質問を歓迎します。

応用構造力学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	北根 安雄 准教授

●本講座の目的およびねらい

エネルギー原理、応力法および変位法の基礎を理解し、静定・不静定構造物の解法を習得することにより、それらを複雑な構造物の構造解析に応用する方法を学ぶ。

●達成目標:

1. 弾性体に対する仮想仕事の原理を理解し、静定・不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。
2. 応力法と変位法をそれぞれ理解し、不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。
3. 変位法をそれぞれ理解し、不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造解析の基礎、構造力学、構造力学演習

●授業内容

1. エネルギー原理
・弾性体に対する仮想仕事の原理
・単位荷重法
・カステリアーノの定理
・相反作用の定理
2. 応力法
・弾性方程式
3. 変位法
・マトリックス構造解析

●教科書

宇佐美勲・葛漢彬 著、構造・材料力学シリーズ4「構造解析学 レクチャーノート」、一粒社

●参考書

適宜紹介する。

●評価方法及び基準

小テスト(10%)、中間試験(30%)、期末試験(60%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義中の質問および担当教員を訪問しての質問を歓迎する。

土質・基礎工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	中野 正樹 教授

●本講座の目的およびねらい
この教科は前期の「土質力学」と合わせて、通年履修により土質力学の全体をカバーされるようになっている。1. 土の圧縮、せん断特性を統一した概念で説明できる。2. 排水・非排水条件下での典型的な線り返し粘土の弾塑性挙動を説明し、与えられた土質定数を用いて計算することができる。3. 地盤の安定問題の基礎、原理を説明することができる。

●バックグラウンドとなる科目
土質力学、構造解析の基礎、力学I、力学II、微分積分学I、微分積分学II

●授業内容
1. 技術者倫理からみた土質・基礎工学の役割 2. 典型的な粘土の力学挙動を、3軸圧縮試験機を用いた試験結果により説明する。特に、粘土の等方圧縮特性、1次元圧縮との比較、砂の圧縮特性を説明する。3. 土のせん断挙動を、正規圧密粘土と過圧密粘土、さらにせん断時の排水条件として、非排水せん断と排水せん断とにわけて説明する。4. 土のせん断挙動、とくに限界状態について述べ、土のせん断強度を理解する。また粘土地盤の非排水支持力、円弧すべり解析、土圧理論について概略を説明する。

●教科書
中野正樹著 「地盤力学」 コロナ社 ISBN978-4-339-05621-1

●参考書
石原研而著 「土質力学」丸善

●評価方法及び基準
中間・試験成績(70%)とレポート提出(30%)により60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
プリントノートは学生の自習を助ける材料とし、講義への積極的な参加、質問を期待する。

●質問への対応
担当教員連絡先：内線4622 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

開水路水理学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	辻本 哲郎 教授 田代 喬 准教授

●本講座の目的およびねらい
「流れの力学」で学んだ基礎知識の実現象解析への応用理論を修得するため、単純化した河川である「開水路」における流れの基礎を学ぶ。開水路における流れの基礎式に基づいて、流れの状態、すなわち流速や水面形を求める手法を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
流れの力学

●授業内容
1. 流れに関する技術と技術者倫理、流れの状態 2. 開水路流れの基礎式 3. 比エネルギー・比力 4. 抵抗則 5. 等流・限界流 6. 水面形 7. 開水路2次元等流の流速分布 8. 開水路非定常流の基礎(微小擾乱、洪水伝播)

●教科書
プリントを配布する。水理学1：栢東一郎著(森北出版)

●参考書
水理学2：栢東一郎著(森北出版)、明解水理学：日野幹雄著(丸善)

●評価方法及び基準
期末試験、レポートなどにより、目標達成度を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
来室、メールによる質問で対応。
連絡先：辻本(内線4625, ttsujisoto@genv.nagoya-u.ac.jp)、田代(内線4628, ttashiro@nagoya-u.jp)

社会資本計画学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	2年前期 3年前期
選択/必修	必修 選択
教員	森川 高行 教授 林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
道路・鉄道・空港・上下水道・公園などの社会資本施設の経済学的特徴、その計画策定の手順、及び需要予測・評価の分析方法について論ずる。

●バックグラウンドとなる科目
都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、都市・国土計画

●授業内容
1. 社会資本計画学概論、技術者倫理
2. 線形計画法1(社会資本計画における例、定式化)
3. 線形計画法2(図解法、代数的解法)
4. 線形計画法3(シンプレックス法)
5. 線形計画法4(シンプレックス法、感度分析)
6. 線形計画法5(経済分析との関係、定式化例)
7. 非線形計画法1
8. 非線形計画法2
9. 経済学の基礎1
10. 経済学の基礎2
11. 経済学の基礎3
12. 費用便益分析1
13. 費用便益分析2
14. 環境アセスメント
15. ライフサイクル分析

●教科書
●参考書
土木計画学：河上省吾編著(鹿島出版会)

●評価方法及び基準
試験および演習レポート

●履修条件・注意事項
●質問への対応

応用構造力学演習 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択
教員	北根 安雄 准教授

●本講座の目的およびねらい
応用構造力学の演習として、さまざまな問題を解くことにより、エネルギー原理、応力法および変位法の基礎を理解し、静定・不静定構造物の解法を習得することにより、それらを複雑な構造物の構造解析へ応用する方法を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
形と力、構造解析の基礎、構造力学、構造力学演習、応用構造力学

●授業内容
1. エネルギー原理
・弾性体に対する仮想仕事の原理
・単位荷重法
・カスティリアーノの定理
・相反作用の定理
2. 応力法
・弾性方程式
3. 変位法
・マトリックス構造解析

●教科書
宇佐美樹・葛漢彬 著、構造・材料力学シリーズ4「構造解析学 レクチャーノート」、一粒社

●参考書
適時紹介する

●評価方法及び基準
レポートの提出回数および完成度を総合的に判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義中の質問および担当教員を訪問しての質問を歓迎する。

コンクリート構造Ⅱ (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択
教員	山本佳士 准教授

- 本講座の目的およびねらい
コンクリート構造第一に引き続く内容で、更に進んで部材の軸圧縮破壊、せん断破壊、ならびに使用時の耐久性の観点で必要となる付着やひび割れの機構について講義する。更にプレストレストコンクリート構造の原理と設計方法を講義する。
- 1. 軸圧縮破壊が説明でき、その耐荷力の計算が出来る。
- 2. せん断破壊が説明出来、その耐荷力の計算が出来る。
- 3. ひび割れ幅、ひび割れ間隔と付着特性の影響について説明が出来、必要な計算が出来る。
- 4. プレストレストコンクリートの原理を理解し、説明が出来る。
- バックグラウンドとなる科目
形と力、構造解析の基礎、材料工学、構造力学、コンクリート構造第1、材料学実験
- 授業内容
1. RC柱の軸圧縮破壊挙動ならびに耐力算定方法を講義する。
- 2. せん断破壊のタイプ(斜め引張破壊、せん断圧縮破壊)とその耐力算定方法(既往の耐力算定式、トラス理論)ならびにせん断破壊を防止するための設計的な観点を(寸法効果、破壊脆性)講義する。
- 3. 鉄筋とコンクリートの複合作用である付着特性とその特性がひび割れ幅やひび割れ間隔に及ぼす影響ならびにひび割れが耐久性に及ぼす影響について講義する。
- 4. プレストレストコンクリートの原理と設計の概要を講義する。
- 教科書
コンクリートを学ぶー構造編ー(理工図書、梅原秀哲監修、中村光他著)
- 参考書
鉄筋コンクリート工学(オーム社、町田篤彦他著)
コンクリート構造の基礎(数理工学社、二羽淳一郎)
コンクリート構造(朝倉書店、田辺忠顕他著)
- 評価方法と基準
中間試験(50%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、期末試験の受験を認めない。
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
- 履修条件・注意事項
講義の私語は厳禁ですが、分からない場合は講義中でも質問を歓迎します。
携帯電話を授業中に鳴らした場合は、その場で退室させ、不合格とします。
- 質問への対応
オフィスアワーは、金曜日10:30~12:00です。その他の時間でも随時来室しての質問を歓迎します。またe-mailでの質問も歓迎します。

地盤工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	山田 正太郎 准教授 梶尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
・極限解析法の基礎理論について理解する。
・極限定理を土圧問題・支持力問題・斜面安定問題へ応用できるようにする。
・円弧すべり解析法などの慣用的な設計法を習得する。
・基本的な地盤改良工法の原理を理解し、総合的見地から適切な工法選定ができるようにする。
- バックグラウンドとなる科目
土質力学、土質・基礎力学、土質力学演習、地盤材料実験
- 授業内容
1. 極限解析法の基礎理論
2. モール・クーロン塑性体
3. 地盤工学問題への極限解析の応用
4. 慣用設計法
5. 地盤改良工法
- 教科書
プリントを配布する
- 参考書
●評価方法と基準
レポート、中間試験、期末試験の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
●質問への対応
担当教員連絡先:
内線 4 6 2 1 s-yaanada@civil.nagoya-u.ac.jp
内線 3 8 3 5 hinokio@civil.nagoya-u.ac.jp

水文・河川工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
・雨水が、短期・長期でどのように流域を流れるのか、どのような現象から成るのか、それらはどのような物理過程なのかを示せる。
・流出過程の成分を提示できる。流出モデルの計算ができる。
・河川の土砂輸送の成分を説明できる。流砂量の基礎的な式を説明できる。
・国土保全の視点で流域を基盤とした河川整備・管理の考え方、技術を身につける。
・河川整備計画(基本方針、整備計画)の立案の基本的な手法を理解する。
・治水・利水機能設計としての河道・構造物設計の基本的な考え方を身につけるとともに、環境への影響を評価する技術を学ぶ。
・個々の機能、技術、影響評価などの視点から総合的に河川・流域管理を議論できるように、体系的な理解を進める。
- バックグラウンドとなる科目
流れの力学、開水路水理学、水理学実験、流域水文学、沿岸海象力学
- 授業内容
流域・河川の自然/水文過程/流出解析/土砂水理学/河床形態・河道形態/治水計画/利水計画/多目的ダム/河道設計/環境アセスメント
- 教科書
講義の流れに沿って詳細なプリントを配布
- 参考書
河川砂防技術基準(案)(1997)、水圏水文学(水村和正、山海堂)、河川工学(西畑勇夫、技報堂)
- 評価方法と基準
期末試験によって講義内容の理解度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
●質問への対応

交通論 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	3年前期 4年前期
選択/必修	選択 選択
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授

- 本講座の目的およびねらい
交通が国土・地域・都市の形成に果たしてきた役割について論じ、交通の需要や自動車の流れなどの交通現象の分析法について講義する。
- バックグラウンドとなる科目
都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、社会資本計画学、空間計画論
- 授業内容
1. 交通計画や交通管理を行う交通技術者としての倫理
2. 道路交通流の特性
3. 道路交通流を解析するための理論
4. 単位時間当たり処理できる人・車両数を表す道路の交通容量
5. 交通信号制御の基礎
6. 信号交差点の交通容量
7. 交通の意義及びトリップの定義、交通体系の計画と評価
8. 円滑な交通状態を導くための交通管理とITS
9. 交通調査の方法論
10. 交通需要予測(四段階推定法)の概要
11. 分布交通量モデル
12. 交通量配分モデル
13. 非集計交通行動モデル
- 教科書
交通工学: 飯田恭敬(監修)、北村隆一(編著)(オーム社)
- 参考書
●評価方法と基準
試験(75%)および演習レポート(25%)
- 履修条件・注意事項
●質問への対応

沿岸海象力学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	川崎 浩司 准教授

●本講座の目的およびねらい

沿岸海域における波の特性と波浪変形に関する波動理論の基礎力を身につけ、沿岸域工学における技術者倫理についても学ぶ。達成目標 1. 微小振幅波理論を理解し、波速、波長、伝播速度、水粒子速度、水粒子運動軌跡など波の基本特性諸量の計算ができる。2. 波動エネルギーと群速度を理解し、エネルギー流束の保存則を使いこなせる。3. 浅水変形、反射、屈折、回折、砕波の現象を理解し、その計算ができる。4. 不規則波の統計特性を理解し、説明ができる。

●バックグラウンドとなる科目
流れの力学

●授業内容

1. 沿岸海象概説 2. 波の基礎方程式 3. 微小振幅波理論 4. 有限振幅波理論 5. 不規則波 6. 波の変形 7. 技術者倫理

●教科書

岩田好一 他「役にたつ土木工学シリーズ1 海岸環境工学」(朝倉書店)

●参考書

川崎浩司「土木・環境系コアテキストシリーズD-4 沿岸域工学」(コロナ社)。必要に応じて、資料を配布する。

●評価方法と基準

レポート課題(10%)と期末試験(90%)より総合判断し、60点以上を合格。なお、無断欠席が1/3以上の場合、試験受験を認めない。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

来室、メールによる質問に対応。連絡先: 中村友昭(内線4632, tnakamura@nagoya-u.jp)

水理学実験 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	川崎 浩司 准教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい

水の挙動とその記述を実際の現象を通して理解する。ねらい: 水理学の4つの現象について、a. 基礎力を身につけ、理論的背景を説明できる。b. 理論と比較する為の実験方法・データ整理方法を組み立てることができる。c. 理論と実験との違いを考察できる。書式に従った分かりやすい報告書を作成できる。一連の目的・理論・実験方法・結果提示・考察・結論をプレゼンテーションでき、総合力を養う。また、そのために共同での準備作業ができる。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学、開水路水理学、水理学演習、沿岸海象力学

●授業内容

実験1 開水路の水面形と流速分布; 実験2 管路の水利と層流・乱流; 実験3 波の水利; 実験4 越流堰; 隔週で上記4つの実験を4班に分かれて実施し、それぞれの翌週に結果・考察に関するディスカッションを行う。

●教科書

各実験毎に指示する。

●参考書

●評価方法と基準
レポート(65%)、グループ発表(10%)および試験(25%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応

来室、メールによる質問に対応。連絡先: 戸田(内線5176, ytda@ecc.nagoya-u.ac.jp)、中村(友)(内線4634, tnakamura@nagoya-u.jp)、菊(内線4634, kiku@nagoya-u.jp)

地盤材料実験 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	中野 正樹 教授 野田 利弘 教授 山田 正太郎 准教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教 野々山 栄人 助教 榎尾 正也 寄附講座准教授

●本講座の目的およびねらい

土の物理試験および力学試験を通して、土質力学の基礎を把握するとともに、実験機器の正しい使用方法、実験の観察から事実を抽出・整理・解釈する力を養うことを目的とする。また、実験結果発表会を通じて、発表、議論、まとめる力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質基礎工学

●授業内容

1. 土試料の採取法と工学的分類; 2. 土の物理試験(密度、含水比、粒度、液性・塑性); 3. 土の締め固め試験; 4. 透水・圧密試験; 5. せん断試験(一面せん断、一軸圧縮、3軸圧縮試験)

●教科書

土の試験実習書: 土質工学会編

●参考書

土質実験—その背景と役割—: 松尾稔著

●評価方法と基準

実験への取り組みと実験後に提出するレポート: 実験結果発表会でのプレゼンテーション

●履修条件・注意事項

●質問への対応

担当教員連絡先: 内線4622 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

極限強度学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	伊藤 義人 教授

●本講座の目的およびねらい

座席現象の理解を通じた構造物の安定、そして、構造物の地震時挙動を通じた動的特性の把握をする。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造力学、応用構造力学

●授業内容

1. 座席解析; 2. 耐震解析; 3: 耐震設計

●教科書

ハンドアウト、耐震工学レクチャーノート(一粒社)

●参考書

●評価方法と基準
中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート(20%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応

E-mail (ito@civil.nagoya-u.ac.jp) で直接質問してよい。必要に応じて来訪を要請する。

鋼構造工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	館石 和雄 教授

●本講座の目的およびねらい
材料工学、構造力学などで習得した基礎知識を基に、実社会で多用されている鋼構造物を設計するために必要な技術を学ぶ。すなわち、鋼材の特徴や設計論に関する事項を習得した後、基礎知識の応用として、具体的な鋼構造部材の力学と、実務で行われている設計法を学ぶ。また、実務上重要となる鋼構造の維持管理に関する知識を身につける。最後に、実際の鋼橋の製作について学び、設計技術と製作技術とがどのように関連しているのかについて理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学 構造力学

●授業内容
1. 構造用鋼材とその特性 2. 引張部材の設計 3. 圧縮部材の設計 4. 曲げ部材の設計
5. 板の曲げと座屈 6. 継手の設計 7. 疲労設計 8. 防食

●教科書
「鋼構造学」館石和雄著 コロナ社

●参考書

●評価方法及び基準
期末試験を基に、総合点60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

都市環境システム工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択
教員	林 希一郎 教授 谷川 寛樹 教授

●本講座の目的およびねらい
本講座では、都市や経済社会を取り巻く環境問題を理解するとともに、これらの問題にアプローチするための手法論、対策、事例等を解説し、受講者自らこれらの環境問題の解決方を考える上で必要な基礎知識、応用力の習得をめざし、総合的な視点を養う。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、社会資本計画学

●授業内容

1. 序論：オリエンテーションと環境システム序論：2. 地球環境と持続可能な開発の基礎：3. 環境容量・制約：4. 分析方法・環境指標：5. 成長理論・環境モデリング：6. 環境経済学の基礎：7. 環境経済評価：8. 生物多様性・廃棄物各論：9. 技術者倫理

●教科書

●参考書

・授業中にプリントを配布
・土木学会環境学委員会編集、環境システム—その理念と基礎手法、共立出版
・ワールドウォッチ研究所、地球環境データブック2007-08
・日引・有村、入門環境経済学、中公新書
・環境白書各年版
・その他授業中に指示する

●評価方法及び基準
小論文と期末テストによる総合判定

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業時またはメールにて対応。

海岸・海洋工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	水谷 法美 教授 非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい
流れの力学や沿岸海象力学で学んだ基礎を統合・発展させ、海岸利用・保全、港湾の利便、および沿岸防災のための海域施設・構造物の設計のための考え方や応用、作用外力の発生機構と作用波力の評価手法、などについて理解する。下記の達成を目標とする。

1) 海岸地形の種類と形成過程を理解し、第三者に説明できる。
2) 波圧と波力の関係を理解し、第三者に説明できる。
3) 波圧公式を理解し、使用することができる。
4) Morison式、Hudson式を理解し、使用することができる。
5) 港湾計画と空港計画の概要を理解し、第三者に説明できる。
6) 技術者倫理について理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目
流れの力学、沿岸海象力学、水理学実験

●授業内容

・日本の海岸地形と形成過程
・日本の港湾
・海岸・海洋構造物の種類と特徴
・構造物に作用する波圧と波力
・小口径構造物に作用する波力
・Morison式
・大口径構造物に作用する波力
・構造物による波変形
・防波堤の波圧算定式
・被覆ブロックの耐波安定
・港湾計画
・空港計画
・海洋工学と技術者倫理

●教科書

海岸環境工学：岩田好一朗・他（朝倉書店）

●参考書

二訂版 海岸・港湾：合田 良実（彰国社）

●評価方法及び基準

達成目標に関連する期末試験を実施し、その結果により総合判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

コンクリート構造演習 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	中村 光 教授 非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい
コンクリートの製造方法、硬化コンクリートおよび鉄筋プレストレストコンクリート (PC) 斜張橋の架橋を対象として、計画から構造解析、設計へと至る一連の手順を具体的に講義し、各自がPC斜張橋の設計を行う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1、第2、構造力学、構造力学演習

●授業内容

1. PC斜張橋の施工事例と設計の流れ
2. 解析理論と有限要素法 (はり要素) ならびにプログラム
3. 主げたの設計
4. 現場見学
5. 主方向の設計計算 (ケーブルの設計、主塔の設計)
6. 横方向の設計計算 7. 設計計算書の作成

●教科書

設計示方書の重要部分を簡潔にまとめたものと、設計の手順を説明したものをそれぞれテキストとして配布する。

●参考書

●評価方法及び基準

すべてのレポートを提出したものに對し、レポートの結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合には、評価の対象としない。

<学部：平成23年度以降入学者>
100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F
<学部：平成22年度以前入学者>
100~80点：優、79~70点：良、69~60点：可、59点以下：不可

●履修条件・注意事項

●質問への対応

衛生工学 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	3年後期 3年後期
選択/必修	選択 選択
教員	片山 新太 教授

- 本講座の目的およびねらい
講義では、水質の基礎から始まり、上下水道における、処理計画・送配水・処理法、上下水道に関連する廃棄物処理法、および環境アセスメントまでを講述する。これによって、水環境のあり方を考える能力を身につける。
- バックグラウンドとなる科目
一般化学、人間活動と環境、水理学、社会環境保全学、都市環境システム工学
- 授業内容
1. 環境・衛生工学概論; 2. 環境調査とアセスメント; 3. 上水道 (計画・送配水・処理); 4. 下水道 (計画・集排水・処理); 5. 排水問題; 6. 汚泥処理
- 教科書
なし
- 参考書
水環境工学 (改訂第2版) : 松尾友矩編 (オーム社) 2005
衛生工学: 佐藤敦久著 (朝倉書店) 1977
日本の水環境行政: (社) 日本水環境学会編集 (ぎょうせい) 2009
水の環境学: 清水裕之、楢山哲也、川村則行編 (名古屋大学出版会) 2011
環境科学入門: 川合真一郎、張野宏也、山本義和著 (化学同人) 2011
環境生物工学: 海野肇・松村政利・藤江幸一・片山新太・丹治保典 (講談社サイエンティフィック) 2002
衛生工学: 川島善・篠原紀・西川泰治編 (森北出版)
- 評価方法及び基準
レポートおよび筆記試験
- 履修条件・注意事項
浄水処理場と下水処理場の見学を行いますので、必ず出席して下さい。
- 質問への対応
講義の後の時間
または
個別に質問に対応: あらかじめ電話・e-mailで日時を予約すること

技術英語1 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	必修
教員	非常勤講師 (土木)

- 本講座の目的およびねらい
技術英語の理解と表現の力を涵養することを目指す。
詳細は英語シラバスを参照。
- バックグラウンドとなる科目
特になし
- 授業内容
基本的に2回の講義にわたって、一つのテーマについて話あいます。
詳細は英語シラバスを参照。
- 教科書
TECHNICAL ENGLISH 3, COURSE BOOK, by DAVID BONAMY (PERSON LONGMAN; ISBN 9781408 229477)
- 参考書
辞書を必ず持参してください。
- 評価方法及び基準
講義への貢献度10%, ショートテスト30%, 期末試験60%
- 履修条件・注意事項
●質問への対応
質問は講義後に受け付けます。
e-mail(dykes@yokkaichi-u.ac.jp)での質問にも対応します。

技術英語2 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	必修
教員	非常勤講師 (土木)

- 本講座の目的およびねらい
技術英語の理解と表現の力を涵養することを目指す。基本的には、本授業は技術英語1の継続科目である。
(詳細は英語シラバスを参照)
- バックグラウンドとなる科目
特になし
- 授業内容
基本的に2週にわたって一つのテーマについて話し合います。
(詳細は英語シラバスを参照)
- 教科書
TECHNICAL ENGLISH 3, COURSE BOOK, by DAVID BONAMY (PERSON LONGMAN; ISBN 9781408 229477)
- 参考書
辞書を必ず持参すること。
- 評価方法及び基準
(1)講義への貢献度10%, (2)ショートテスト30%, (3)期末試験60%
- 履修条件・注意事項
●質問への対応
講義後に質問を受け付けます。
e-mail (dykes@yokkaichi-u.ac.jp) での質問にも対応します。

構造材料実験1 (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	必修
教員	伊藤 義人 教授 館石 和雄 教授 中村 光 教授 北根 安雄 准教授 判治 剛 准教授 山本佳士 准教授 廣畑 幹人 助教 三浦 泰人 助教

- 本講座の目的およびねらい
鋼構造、コンクリート構造に関する基礎を、視覚的・体験的・理論的に学ぶ。鋼材およびコンクリートの基本的な材料実験を通じて、鋼、コンクリートの応力-ひずみ関係を理解するとともに、鋼部材およびコンクリート部材の載荷実験を行い、部材としての力学的挙動を学ぶ。これまでの講義で学習した内容とリンクさせ、理論的な背景に関してもその知識を確固たるものにする。またグループコンペティションを通して、思考する力、表現する力、チームワーク力を養う。本実験の目標1. コンクリートの配合設計ができる。2. 鋼材、コンクリートの材料特性が説明できる。3. 鋼部材、コンクリート部材の力学的挙動を理解し、理論との対応ができる。
- バックグラウンドとなる科目
形と力、構造解析の基礎、材料工学
- 授業内容
・ガイダンス、講義・配合設計、繰返せ・フレッシュコンクリートの特性試験・鋼材の引張試験、圧縮試験・コンクリートの強度試験・鋼製はり、RCはりの弾性挙動試験・グループコンペティション
- 教科書
実験の内容を詳しく説明したテキストを配布する。
- 参考書
●評価方法及び基準
実験を通じて知識を高めることを目的としていることから、原則として全ての実験に出席し、かつ全てのレポートの評価が60%以上の場合に単位を認める。1度でも欠席した場合、あるいはレポートを提出しなかった場合は不合格とする。
- 履修条件・注意事項
●質問への対応
各教員へ入室しての質問を随時受け付ける。またe-mailでの質問も歓迎する。

構造材料実験Ⅱ (1.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	必修
教員	伊藤 義人 教授 錦石 和雄 教授 中村 光 教授 北根 安雄 准教授 判治 剛 准教授 山本佳士 准教授 廣畑 幹人 助教 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
鋼構造、コンクリート構造に関する基礎を、視覚的・体験的・理論的に学ぶ。鋼部材およびコンクリート部材の載荷実験を行い、部材の破壊形態を知るとともに、これまでの講義・実験で学習した内容とリンクさせ、部材の耐荷力の算定手法など理論的な背景に関してもその知識を確固たるものにする。またグループコンペティションを通して、思考する力、表現する力、チームワーク力を養う。本実験の目標1. 鋼製はりの破壊挙動を理解し、理論との対応ができる。2. RCはり、PCはりの破壊挙動を理解し、理論との対応ができる。3. 鋼構造物、コンクリート構造物の劣化挙動を理解し、理論との対応ができる。

●バックグラウンドとなる科目
構造材料実験Ⅰ、形と力、構造解析の基礎、材料工学、構造力学、応用構造力学、コンクリート構造第1、コンクリート構造第2

●授業内容
ガイダンス、講義・RCはり、PCはりの製作・鋼製はりの静的破壊試験・RCはり、PCはりの静的破壊試験・R20-bridgeを活用した点検、非破壊試験・グループコンペティション

●教科書
実験の内容を詳しく説明したテキストを配布する。

●参考書
●評価方法及び基準
実験を通じて知識を高めることを目的としていることから、原則として全ての実験に出席し、かつ全てのレポートの評価が60%以上の場合に単位を認める。1度でも欠席した場合、あるいはレポートを提出しなかった場合は不合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
各教員へ入室しての質問を随時受け付ける。またe-mailでの質問も歓迎する。

都市・国土計画 (2.0単位)

科目区分	専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年後期
選択/必修	選択
教員	村山 顕人 准教授

●本講座の目的およびねらい
本授業の目的は、
1) 都市・国土計画を環境・社会・経済・生活の質に深く関わる重要な分野として認識すること、
2) 都市・国土計画の歴史と現状を学ぶこと(基礎力の涵養)、
3) 現在の都市・国土計画の体系を空間レベル毎に理解すること(創造力・総合力の涵養)である。

また、本授業の達成目標は、多様な国内外諸都市の現状と課題、取り組み、そして、現在の都市・国土計画の体系を包括的に説明することができるようになることである。

●バックグラウンドとなる科目
都市と文明の歴史、都市と環境、空間計画論、空間設計論、建築学特別講義、土木史

●授業内容
1. 身近な都市圏の現状と課題、最近の取り組み
2. 多様な国内外諸都市の現状と課題、最新の取り組み(先進国・発展途上国)
3. 様々な都市計画思潮と近代都市計画の成立、現代都市計画へ
4. 日本の「まちづくり」
5. 近年の都市計画・国土計画: 国土レベル、都市圏レベル、自治体レベル、地域レベル、地区レベル
6. 日本の都市・国土計画の特徴・課題・展望

●教科書
都市計画とまちづくりが分かる本(彰国社)

●参考書
都市計画国際用語辞典(丸善)
まちづくりキーワード事典(学芸出版社)
世界のSSD100: 都市持続再生のツボ(彰国社)

●評価方法及び基準
小レポート: 20%、中間レポート: 40%、期末レポート: 40% で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
・時間外の質問を受け付ける。事前に連絡をすること。
・E-mail: a.murayama@nagoya-u.jp

卒業研究A (2.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	必修
教員	各教員(環境土木)

●本講座の目的およびねらい
教員とディスカッションしながら、あるテーマに対して研究を行う。テーマを理解し、スケジュールにしたがって研究を遂行し、成果を分かり易く論文にまとめ、成果を発表する一連のプロセスを通じて、未知の問題を、どのような方法で解決するかの演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目
●授業内容
研究室に分かれて、教員とディスカッションしながら、卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめる。研究の内容、研究の方法などは、指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析、などを行って卒業研究を進める。

●教科書
●参考書
●評価方法及び基準
研究課題に対する基礎力、応用力、説明力、応用力、創造力、総合力などをレポートやグループ討論を通じて総合的に可否を判定する。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

卒業研究B (2.5単位)

科目区分	専門科目
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年後期
選択/必修	必修
教員	各教員(環境土木)

●本講座の目的およびねらい
教員とディスカッションしながら、あるテーマに対して研究を行う。テーマを理解し、スケジュールにしたがって研究を遂行し、成果を分かり易く論文にまとめ、成果を発表する一連のプロセスを通じて、未知の問題を、どのような方法で解決するかの演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目
●授業内容
研究室に分かれて、教員とディスカッションしながら、卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめる。研究の内容、研究の方法などは、指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析、などを行って卒業研究を進める。

●教科書
●参考書
●評価方法及び基準
研究課題に対する基礎力、応用力、説明力、応用力、創造力、総合力などをレポートやグループ討論とともに、卒業論文、発表会および質疑応答から総合的に可否を判定する。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

情報処理演習 (1.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義及び演習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年前期
選択/必修	選択
教員	判治 剛 准教授

●本講座の目的およびねらい
コンピュータプログラムの基本的な文法を理解するとともに、問題を解くためのアルゴリズムを組み立てられるようになることを目標とする。
演習を通じて、環境土木工学に関連する数学的・力学的な問題に数值的・情報処理的な考え方を応用できる能力を習得するとともに、その結果を総合的に判断・説明できる能力を習得する。

1. Fortranの文法の理解
2. Fortranにおける変数・配列
3. アルゴリズムの組立
4. 力学や数学に関する問題のコンピュータプログラムによる解決と結果の表現

●バックグラウンドとなる科目

情報処理序説

●授業内容

1. コンピュータプログラムの役割と重要性
2. エディタおよびコンパイラの概要、変数の型宣言、四則演算、ディスプレイへの出力、キーボードからの入力に関する演習
3. ループや条件文を用いたアルゴリズムの組立て、組込関数の使用方法に関する演習
4. 配列の仕組・宣言・使用法、配列を活用したアルゴリズムの組立てに関する演習
5. ファイルからの入力方法、ファイルへの出力方法、書式の指定方法に関する演習
6. サブルーチンおよび関数のメリットと使用法、複素数の扱い方に関する演習

●教科書

指定しない、ハンドアウト：毎回配布する。

●参考書

Fortran77入門(培風館)やFortran90入門(森北出版)を認めるが、各学生が自分にとって読みやすい書籍を選ぶべきである。

●評価方法と基準

演習のレポートと2回の総合演習のレポートを総合的に評価し、60%以上を合格とする。なお、レポートの提出回数が1/2以下の場合は、評価の対象としない。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義資料や演習解答例はウェブ上に公開する。
特に定まったオフィスアワーは設けませんが、電子メール(hanji@civil.nagoya-u.ac.jp)での質問や随時来室(9号館625室、内線4618)としての質問を歓迎する。

数値解析学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	2年後期
選択/必修	選択
教員	山田 正太郎 准教授

●本講座の目的およびねらい

- ①種々の数値計算法の基礎理論について説明できる。
- ②学んだ数値解析法を用いて、実際にプログラムを組むことができる。
- ③基礎的な計算工学の問題に適切な数値解析法を適用できる。

●バックグラウンドとなる科目

情報処理序説、学術情報処理演習、線形代数、微積分学などの数学科目

●授業内容

1. 数値計算における誤差
2. 関数の補間
3. 非線形方程式
4. 連立1次方程式
5. 行列の固有値問題
6. 常微分方程式の初期値問題
7. 偏微分方程式

●教科書

指定なし。必要に応じてプリントを配布する。

●参考書

指定なし。

●評価方法と基準

レポート課題と定期試験の成績から総合的に評価する。レポート課題には、Fortranによるプログラミング課題も含まれる。総合点が60点以上の者を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義中の質問を歓迎する。来室およびE-mail(s-yanada@civil.nagoya-u.ac.jp)での質問も随時受け付ける。

計測技術及び実習 (2.5単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義及び実習
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	3年前期 3年前期
選択/必修	選択 選択
教員	齋藤 輝幸 准教授 久野 覚 教授 山本 俊行 教授 飛田 潤 教授 飯塚 悟 准教授 非常勤講師(土木) 柴原 尚希 助教 吉田 友紀子 助教 奥阿 桂次郎 助教 平井 敬 助教

●本講座の目的およびねらい

土木・建築分野の技術者が設計、建設、維持・管理の各段階で必要とされる種々の測定法の原理について講義し、そのいくつかについて実習する。

以下を目標とする。

1. 土木・建築分野の技術者が必要とする各種評価法や測定・測算法の原理を理解する。
2. 計測機器を用い、温度、音、光、風、振動等の測定が出来る。
3. 測量機器を用い、距離、角、水準、平板等の測量が出来る。
4. 測定・測量結果に基づくレポートのまとめ方を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

物理環境工学、確率と統計、流れの力学、人間活動と環境

●授業内容

1. 計測技術とは(ガイダンス)
2. 風速の測定と流体の可視化に関する講義と実習
3. 道路騒音の測定に関する講義と実習
4. 温度の測定に関する講義と実習
5. 外界気象要素の測定に関する講義と実習
6. 光環境の測定に関する講義と実習
7. 振動の測定に関する講義と実習
8. 測定の種類と方法に関する概論講義
9. 測定の基本的な方法に関する講義と実習
10. 距離測量と角測量に関する講義と実習
11. 水準測量に関する講義と実習
12. 平板測量に関する講義と実習
13. 最近の測量技術に関する講義

●教科書

●参考書

中村英夫著「測量学」(技報堂)、日本建築学会「環境工学実験用教材1/11」

●評価方法と基準

各課題に対するレポートを総合的に評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義中に対応する。担当教員内線：山本(4636)、飛田(3754)、齋藤(5240)

社会環境保全学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	谷川 寛樹 教授 森 保宏 教授 片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい

環境制約と人間活動の関係について、資源・エネルギー・水および環境リスクを中心に社会環境保全の立場から講義する。

●バックグラウンドとなる科目

衛生工学 環境システム工学 設備工学 確率と統計

●授業内容

1. 環境と人間活動：地球環境システム
 - (1) 地球温暖化、気候変動
 - (2) 環境容量と環境負荷、環境影響
 - (3) 経済成長とエネルギー・資源・環境
 - (4) 地域環境管理と環境指標
 - (5) 循環型社会、物質循環
2. 環境リスク評価
 - (1) 暴露解析と閾値、基準値とリスク
 - (2) 大気汚染のリスク
 - (3) 水道水のリスク
 - (4) リサイクルとLCA
 - (5) リスク比較
3. 人と水資源
 - (1) 水質の基礎
 - (2) 水の環境基準

●教科書

各教員より資料を配布する。

●参考書

井村秀文著「環境問題をシステムの考える一氾濫する情報に踊らされないために」、化学同人、土木学会環境システム委員会編「環境システム—その理念と基礎手法」、朝倉書店 中西準子他「演習 環境リスクを計算する」(岩波書店) クリストファー・レイヴィン編著「地球環境データブック」ワールドウォッチジャパン

●評価方法と基準

小論文(17%)、小テスト(50%)、期末試験(33%)の結果により判断し、60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

時間外の質問は、講義終了後、教室で受け付ける。
それ以外の時間については事前に担当教員にメール・電話で時間を打ち合わせる事。
環境学研究所 都市環境学専攻 谷川教授まで(内線3840, tanikawa@nagoya-u.jp)

学外実習 (1.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	実習
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	3年前期
選択/必修	選択
教員	各教員 (環境土木)

●本講座の目的およびねらい
実務現場 (計画・調査・設計・建設・維持・管理) での実習体験を通じて、実社会で役に立つ土木技術者 (シブイル・エンジニア) に求められる資質を身につけ、どのような素養が実社会で必要とされ、大学で学んだことがどのように企業や官庁などで生かされるのかを理解することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
工学倫理、確率と統計、その他専門系科目

●授業内容
実務現場における体験学習

●教科書
特になし

●参考書
特になし

●評価方法及び基準
評価は「合・否」で行い、以下の要件を満たしたものを「合」、そうでないものを「否」とする。(1)原則として10日間または64時間以上の実習をうけること、(2)「実習評価書」の評価は「可」以上、(3)レポートを提出し発表会での発表を行うこと

●履修条件・注意事項

●質問への対応

土木史 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	3年前期 4年前期
選択/必修	選択 選択
教員	非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい
古代から現代にいたる土木施設や都市デザインの歴史的展開を、その時代背景から理解し、今後の土木・都市デザインのあり方を考える能力を身に付ける。

●バックグラウンドとなる科目
都市と文明の歴史、構造物と技術の発展

●授業内容

- ・ガイダンス・概論
- ・古代都市と構造物
- ・中世都市と構造物
- ・近世都市と構造物
- ・産業革命と構造物
- ・近代の治水と都市
- ・歴史構造物の調べ方
- ・発表と講評
- ・近代都市計画の黎明
- ・都市の公園と緑地
- ・日本の大都市と郊外
- ・街路と小径・都市像の問題
- ・総括・最終レポート提出

●教科書

●参考書

●評価方法及び基準

- ・毎回の講義において作成するワークシートを評価する。
- ・レポート課題は、発表課題、最終課題のみ。
- ・配点は、ワークシートの評価40点、発表30点、最終40点とする。60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
毎回講義中に作成するワークシートを通じて受け付け、事後の講義で応答する。

空間設計論 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	小松 尚 准教授

●本講座の目的およびねらい
下記の観点から、建築・都市空間を計画・デザインしていくために必要となる専門知識・技術を習得するとともに、生活や周辺環境に対して建築・都市空間が与える影響について理解を深める。・建築の主体構造や各部構法の物理的な成り立ちとデザイン：・人間生活と空間

●バックグラウンドとなる科目
図学、人間活動と環境

●授業内容

第1週 建築の構法や材料に関する概説;第2週 主体構造の構法とデザイン1:木造;第3週 主体構造の構法とデザイン2:鉄骨造;第4週 主体構造の構法とデザイン3:鉄筋コンクリート造;第5~7週 各部構法とデザイン;第8週 設計プロセスと構法;第9~10週 建築に関わる寸法:人体寸法・動作寸法・視覚と心理領域;第11~12週 建築・都市と生活との関わり、単位空間;第13~14週 建築・都市の社会性・公共性・文化性;第15週 最終試験

●教科書

コンパクト設計資料集成:日本建築学会編(丸善);建築構法:内田祥哉監修(市ヶ谷出版社)

●参考書

●評価方法及び基準

講義内容について中間レポートや期末試験を行い、その結果から成績を算出する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。なおレポート提出や期末試験の実施日や試験範囲については、講義時間中で説明するので確認すること。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

土木地質学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	中野 正樹 教授 非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい
地質現象の理解を通じて土木技術問題を解決するための高度な応用力と創造力の習得を目標とし、以下の具体的目標の達成を目指す。

1. 地質学の基礎知識を習得し、土木地質学における地盤や岩盤の地質構造、力学特性を理解し、その概要を説明できる。
2. 土木構造物の計画、設計、施工、管理に向けたデザイン力向上に寄与できる。
3. 地形、地質図の読み方、岩盤分類などの知識を習得し、概要を説明できる。
4. 土木構造物の設計施工に先立つ土木地質調査法の意義、必要性を説明できる。
5. 土木地質調査法の概要を理解し、その利点と適用性を説明できる。
6. 土木地質調査計画立案及び成果事例を通じて、設計者・施工者としての評価視点を習得できる。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質・基礎工学、地盤工学、土質力学演習、地盤材料実験

●授業内容

1. 土木工学における土木地質学の役割、地球の歴史と地球観、世界の地質・日本の地質 / 地形と土木地質、鉱物・岩石・岩盤 / 地質構造 / 岩盤の劣化(風化)。
2. 地質学基礎演習 (空中写真判読法、鉱物・岩石の鑑定法と工学的評価法)。
3. 土木地質調査法 (地表踏査、ボーリング、現位置試験、物理探査ほか)。
4. 地質図学演習 (地質図及び土木地質図の書き方・読み方・評価の仕方)。
5. ダム、トンネル、道路、土砂災害における土木地質調査の手順。
6. 土木地質調査計画演習 (土木地質計画の立案、評価)。

●教科書

プリント配付する。

●参考書

参考書は初回授業において紹介する。

●評価方法及び基準

演習課題 (30%) と期末テスト (70%) により60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義中に出来るだけ質問するよう促す。直接の質問、電子メールでの質問等はいづれでも受け付けられる。(Email: shinizukj@newjcc.co.jp)

防災・減災技術 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	野田 利弘 教授

●本講座の目的およびねらい
我が国は、その地形的、地理的理由などから多種多様な自然災害に見舞われる国であり、安全で安心な社会を実現するためには、防災・減災に関する知識は必要不可欠です。本講義では、まず自然災害の基礎的知識について、その歴史も含めて説明します。さらに、自然災害を低減するための技術とその基本原理について、ハード面からソフト面まで幅広く講義します。本講義を通じて、これからの防災・減災のあり方を学んでもらい、自然災害に関する基礎的知識、自然災害の特徴、ハード面・ソフト面の対策技術などについて説明ができる能力を養ってもらいます。

●バックグラウンドとなる科目
構造材料系、地盤系、水工系、計画系、環境系に関わる講義すべて

●授業内容
自然災害とその歴史的背景(地震、津波、洪水、高潮、液状化など)土木構造物における自然災害とその対策技術(構造材料)地盤・盛土における自然災害とその対策技術(地盤)河川・沿岸域における自然災害とその対策技術(水工)自然災害に対する都市・交通システム(計画)自然災害による環境問題とその対策技術(環境)

●教科書
各教員より配布資料を配布する。参考書は適宜紹介する。

●参考書
なし

●評価方法及び基準
レポートによって総合的に判断し、60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
なし

●質問への対応
講義中の質問を歓迎する。来室およびE-mailでの質問も随時受け付ける。

水圏環境学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目		
授業形態	講義		
対象履修コース	環境土木工学		
開講時期1	4年前期		
選択/必修	選択		
教員	水谷 法美 教授	川崎 浩司 准教授	非常勤講師(土木)
	辻本 哲郎 教授	戸田 祐剛 准教授	田代 喬 准教授

●本講座の目的およびねらい
河川・海域をとりまく環境問題について理解する。
・河川流域での水・土砂・物質輸送の基本的特性を学ぶ。
・物質動態と河川生態系の相互の関係を理解する。
・流れの力学等で学んだ事項を、物質動態の把握へ応用する手法を学ぶ
・SMB法による風波の推算ができる。
・海浜流や潮流の物理構造が理解でき、その計算ができる。
・漂砂機構と海浜変形機構が理解でき、海岸侵食や汀線前進の概略予測ができる。
・沿岸海域の生態系が理解できる。
・富栄養化や貧酸素化のメカニズムとその対策法が理解できる。
・環境影響評価法とモニタリングのあり方が理解できる。

●バックグラウンドとなる科目
流れの力学、開水路水理学、水文、河川工学、沿岸海象力学、海岸・海洋工学

●授業内容
陸域の水・土砂・物質輸送と生態系/物質の移流・拡散/有機物と栄養塩/生息場評価・生物量評価/沿岸海域の物理・生物環境のあり方/風波の推算/漂砂と海浜変形/沿岸海域の流れ/沿岸環境と生態系/環境影響評価/技術者倫理

●教科書
岩田好一朗他「役にたつ土木工学シリーズ1 海岸環境工学」(朝倉書店)。

●参考書
川崎浩司「土木・環境系コアテキストD-4 沿岸域工学」(コロナ社)。必要に応じて資料を配付。参考書は適宜紹介。

●評価方法及び基準
レポート(15%)と期末試験(85%)より総合判断し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項
なし

●質問への対応
来室、メールによる質問で対応。連絡先:水谷(内線4630, nizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 戸田(内線:5176, ytoda@cc.nagoya-u.ac.jp)

社会基盤施設の設計と維持管理 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	中村 光 教授 非常勤講師(土木)

●本講座の目的およびねらい
土木構造物の設計に当たって、何故その地点にその形式の構造物が造られることになったのか、すべて理由があるはずである。法律、規準等で定められた内容もあれば、技術者が自らの知識と経験から総合的に判断する場合もある。例えば、どのようなプロセスを経て、橋梁架設の地点が定まるのか、また橋梁形式が定まるのかを、第一級のエンジニアからの経験を踏まえた内容を聞き、単なる知識だけでなく応用力、総合力を養う。1. 社会基盤施設の設計と維持管理に至る流れが説明出来る。2. インフラの構造計画の基本的考え方が説明できる。3. 高速道路の路線計画を行う流れが説明出来る。4. 設計地盤の考え方と耐震設計の基本が説明できる。5. ライフライン構造物の機能維持の重要性が説明できる。6. インフラの建設、維持管理における技術者の役割とその重要性が説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
構造物と技術の発展、人間活動と環境をはじめとするコースの科目全般

●授業内容
1. インフラの構造計画 シビルデザイン、ストラクチャルデザイン、ディテールデザイン
2. 道路路線決定と道路構造物の設計・施工・維持管理、技術者倫理3. 原子力発電施設の地点決定と施設の設計、技術者倫理4. 通信施設の役割と管理、技術者倫理5. 構造物のデザインの決定とその効用6. 現場見学会7. 技術者倫理の事例と対応の検討

●教科書
教科書は特になが、各講義で資料が配付される。

●参考書
なし

●評価方法及び基準
レポート(70%)と出席(30%)により評価、60%以上を合格とする。第一級の技術者の話を聞くことが非常に重要なことと位置づけているため、なお、無断欠席が1/3以上の場合、レポートを全て提出しない場合は評価の対象としない。〈学部:平成23年度以降入学者〉100~90点 : S, 89~80点 : A, 79~70点 : B, 69~60点 : C, 59点以下 : F

●履修条件・注意事項
なし

●質問への対応
随時来室しての質問を歓迎します。またe-mailでの質問も歓迎します。

国土のデザインとプロジェクト (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	2年前期 4年前期
選択/必修	選択 選択
教員	非常勤講師(土木)

●本講座の目的およびねらい
社会資本整備の意義と重要性を理解するためには、国土形成の歴史や国土の特徴を知る必要がある。本講義では、まず日本の国土の成り立ちや現状、諸外国との違いなどを説明し、日本の国土の自然条件や社会条件について理解する。その上で、これまでにどのような社会基盤整備が行われてきたのか、将来の社会基盤整備プロジェクトに携わるためにどのようなことを学び知る必要があるかなど、実際のプロジェクトに携わった第一級のエンジニアを招き、わかりやすく講義する。国土デザイン・土木プロジェクトに対する俯瞰的、国際的な視野を養成する。

●バックグラウンドとなる科目
構造物と技術の発展、都市と文明の歴史、人間活動と環境

●授業内容
・国土形成の歴史
・国土の国際比較
・国土と社会資本整備
・国内外の土木プロジェクト紹介
・土木分野における国際協力

●教科書
なし。適宜資料を配布する。

●参考書
なし

●評価方法及び基準
担当講師毎にレポートを課す。その合計点を100点に換算し、以下の基準で判定する。
<平成23年度以降入学者>
100~90点 : S, 89~80点 : A, 79~70点 : B, 69~60点 : C, 59点以下 : F
<平成22年度以前入学者>
100~80点 : 優, 79~70点 : 良, 69~60点 : 可, 59点以下 : 不可
なお、毎回出席を単位取得の必須条件とする。

●履修条件・注意事項
なし

●質問への対応
なし

経営工学 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

- 本講座の目的およびねらい
製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から解説する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
 1. 技術革新の連続性～コネクションズ～
 2. 技術革新における飛躍～セレンディピティ～
 3. 革新的組織と場のマネジメント
 4. 技術革新の背景～パラダイムシフト～
 5. 技術革新のダイナミズム～アーキテクチャ～
 6. 技術革新能力の変化～コンカレント・ラーニング～
- 教科書
- 参考書
講義中、必要に応じて紹介する。
- 評価方法及び基準
毎回の講義終了前にその日の講義内容を振り返るため小テストを行い、最終的にレポートを提出してもらう。平常点50%、レポート点50%で評価を行う。なお、1/3以上の欠席がある場合には、レポートの提出を認めない。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義内容についての質問は、講義中に応答する。

工学概論第1 (0.5単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

- 本講座の目的およびねらい
社会の中核で活躍する名古屋大学の先達による広く深い体験を踏まえた講義を受講することにより、工学系技術者・研究者として必須の対人的・内面的な人間力を涵養するとともに、自らの今後の夢を描き勉学の指針を明確化する。
- バックグラウンドとなる科目
なし
- 授業内容
「がんばれ後輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。
- 教科書
なし
- 参考書
なし。講義の際にレジメが配られることもある。
- 評価方法及び基準
講師の授業内容に関連して、簡単な課題のレポート提出により評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
教務課の担当者にたずねること。

工学概論第2 (1.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

- 本講座の目的およびねらい
世界は地球温暖化問題に直面し、低炭素型の社会形成が課題となっている。本講義では日本のエネルギー需給の概要を把握するとともに、省エネルギーや再生可能エネルギー技術およびその導入促進策の動向について理解することを目的とする。また、我が国のエネルギー政策の指針となる「エネルギー基本計画」について解説する。
- バックグラウンドとなる科目
特になし
- 授業内容
 1. 日本のエネルギー事情
 2. 日本のエネルギー政策とエネルギー基本計画
 3. 太陽エネルギー利用技術
 4. 排熱利用による省エネルギー技術
 5. 低炭素型社会に向けた仕組み作り～環境モデル都市の取り組み例
 6. 「エネルギー検定」をやってみよう
- ※講義中に新エネルギー等に関するアンケート調査を実施する。その集計結果を全国調査の結果と比較する予定。
- 教科書
特になし
- 参考書
参考資料を講義中に配布する
- 評価方法及び基準
2日間の講義それぞれでレポート課題を出し、その場で提出する。レポートの内容によって評価する。
- 履修条件・注意事項
集中講義2日間の両方ともに出席し、2つのレポートを提出する必要がある。
- 質問への対応
集中講義のため、質問は講義時間中に受け付ける。

工学概論第3 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	レレイト エマニエル 講師 曾 剛 講師 西山 聖久 講師

- 本講座の目的およびねらい
日本の科学技術と題して、日本における科学技術について、英語で概論説明するものである。
- バックグラウンドとなる科目
なし
- 授業内容
日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討論し、理解を深める。
- 教科書
なし
- 参考書
なし
- 評価方法及び基準
出席30%、レポート40%、発表30%
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中及び授業後に対応する

工学概論第4 (3.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

●本講座の目的およびねらい
この授業は、日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために基本的なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要な初歩的な文法、表現を学び、会話力を中心とした日本語の能力を養成する。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容
1. 日本語の発音 2. 日本語の文の構造 3. 基本語彙・表現 4. 会話練習 5. 聴解練習

●教科書
Japanese for Busy People 1 (第3版) 国際日本語普及協会 講談社インターナショナル (2006)

●参考書

●評価方法及び基準
毎回講義における質疑応答と演習50% 会話試験 50% で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義終了時に対応する。担当教員連絡先：内線 3603 o47251a@cc.nagoya-u.ac.jp

工学倫理 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	1年前期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

●本講座の目的およびねらい
技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々の効果を与えています。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざします。

●バックグラウンドとなる科目
全学教養科目(科学・技術の倫理、科学技術史、科学技術社会論) 文系教養科目(科学・技術の哲学)

●授業内容
1. 工学倫理の基礎知識 2. 工学の実践に関わる倫理的な問題

●教科書
黒田光太郎、戸田山和久、伊勢田哲治編『誇り高い技術者になろうー工学倫理ノススメ』(名古屋大学出版会)

●参考書
C.ウィットベック(札幌、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房)、斎藤了文・坂下浩司編、『はじめての工学倫理』(昭和堂)、C.ハリス他著(日本技術士会訳編)『科学技術者の倫理-その考え方や事例-』(丸善)、米田科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすきみたちへ』(化学同人)

●評価方法及び基準
レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上を69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。ただし、平成22年度以前の入学者については、60点から69点を可、70点から79点を良、80点以上を優とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義時間終了後およびメールで対応します。メールアドレスは初回講義で知らせます。

産業と経済 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師(教務)

●本講座の目的およびねらい
具体的な経済問題について検討しつつ、一般社会人として必要な経済の知識を習得し、同時に経済学的な思考を学ぶ。達成目標 1. 一般社会人として必要な経済知識の習得 2. 経済学的な思考の理解・習得

●バックグラウンドとなる科目
社会科学全般

●授業内容
1. 経済循環の構造…ギブ・アンド・テイク2. 景気の変動…好況と不況 3. 外国為替レート…円高と円安4. 政府の役割…歳入と歳出5. 日銀の役割…物価の安定と信用秩序の維持6. 人口問題…過剰人口と過少人口7. 経済学の歴史…スミスとケインズ8. 自由市場経済…その光と影9. 第二次世界大戦後の日本経済…インフレとデフレ

●教科書
中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門』第三版(同文館)

●参考書
P.A.サムエルソン, W.D.ノードハウス『経済学』(岩波書店)
宮沢健一(編)『産業連関分析入門』<新版>(日経文庫, 日本経済新聞社)
尾崎麗『日本の産業構造』(慶應義塾大学出版会)

●評価方法及び基準
期末試験により、目標達成度を評価する。
<<平成22年度以前入学生>>
100点満点で60点以上を合格とし、
60点以上69点までを可、70点以上79点までを良、80点以上を優とする。
<<平成23年度以降入学生>>
100点満点で60点以上を合格とし、
60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義時間の前後に、講義室にて対応する。

特許及び知的財産 (1.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	後藤 吉正 教授

●本講座の目的およびねらい
・研究者や技術者にとって特許がなぜ必要かを理解する。
・特許の基本知識を学び、受講生が発明した場合に、何をすれば良いかを学ぶ到達目標

1. 特許制度の目的と必要性を理解する
2. 特許出願の手続きを理解し、簡単な出願書類が書ける
3. 基本的な特許調査ができる
4. 企業や大学が特許をどのように使っているのか解る

●バックグラウンドとなる科目
特になし

●授業内容
1. はじめに：知的財産と特許の狙い
2. 特許制度の概要
3. 特許調査を体験する
4. 特許出願の書類の作成を体験する1
5. 特許出願の書類の作成を体験する2
6. 特許権の使い方
7. 国際標準化と特許戦略
8. 企業や大学の特許マネジメント

●教科書

●参考書
特になし

●評価方法及び基準
毎回講義終了時に出席するレポート70%、演習テーマについて作成する特許出願書類30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
・原則、講義終了時に対応する。必要に応じて教員室で対応
・教員室 : 赤崎記念研究館2階
・担当教員連絡先: 内線3924 goto.yoshinasa@sangaku.nagoya-u.ac.jp

社会環境工学概論 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	環境土木工学 建築学
開講時期1	後期 後期
選択/必修	選択 選択
教員	水谷 法美 教授 清水 裕之 教授 飛田 潤 教授 非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい
土木工学や建築学が社会環境の向上に果たす役割を理解する

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

前半では建設現場への視察等を通して社会基盤整備プロジェクトにおける土木工学の基礎理論と建設技術を紹介し、後半では日本の建築や都市のデザインや技術を視察等とおして多面的・包括的に紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法及び基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

環境学研究科都市環境学専攻 谷川教授まで
Email tanikawa@nagoya-u.jp

職業指導 (2.0単位)

科目区分	関連専門科目
授業形態	講義
対象履修コース	共通
開講時期1	4年後期
選択/必修	選択
教員	非常勤講師 (教務)

●本講座の目的およびねらい

本科目は、高等学校教諭免許「工業」を取得するための必須科目です。高等学校における職業指導の目的と意義、勤労観・職業観を育成するために行われている実践的な職業指導、進路指導、及びキャリア教育等について学ぶ。特に、職業の今日的な問題についての学習を踏まえ、職業人として意欲を持ち、主体的な意思や態度で自らのキャリア形成を図るために行う支援について、具体的なプロセスを学ぶ。

- 1 産業社会における工業の意義、役割、貢献等を習得する。
- 2 産業社会で求められる職業人像について考える。
- 3 社会人としての基礎力を身に付ける。
- 4 キャリア形成における自己実現を目指すプロセスを考察する。
- 5 職業指導における今日的課題について考察する。

●バックグラウンドとなる科目

現代社会、国際社会、政治・経済、歴史、教育発達心理学など

●授業内容

- 1・2 はじめに、「職業指導」の根拠・意義・役割等
- 3・4 現代の産業構造とキャリア形成に向けて
- 5・6 社会の変化と職業指導、キャリア教育
- 7・8 職業指導の方法と実際 進路指導とカウンセリング技術
- 9・10 キャリアガイダンス・コーチング技術と進路指導
- 11・12 職業指導の具体事例 自己実現を目指すプロセス
- 13・14 職業指導の評価
- 15 「試験問題」の出題

●教科書

特に指定しない。(必要に応じて、プリントを適宜配付)

●参考書

「厚生労働白書」 H25年版(厚生労働省)
「進路指導・キャリア教育の理論と実践」吉田辰著(日本文化科学社)
「教育の職業的意義」本田由紀著(ちくま書房)
「工業科教育法の研究」池守滋他(実教出版) 等
その他、参考文献は講義中に紹介する。

●評価方法及び基準

期末試験、課題レポート、出席状況等での絶対評価

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業項目に関する質疑応答措置